

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 30 年度 第 7 回理事会

開催日時 平成 31 年 3 月 5 日(火)
15 時 00 分から 18 時 00 分

開催場所 東京大学理学部 1 号館 710 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)

平成 30 年度第 7 回理事会議事次第

1. 開 会

議事内容

2. 審 議 事 項

- 第 1 号議案 新入会員承認の件
- 第 2 号議案 賛助会員入会承認の件
- 第 3 号議案 委員承認の件
- 第 4 号議案 寄附について
- 第 5 号議案 2019 年度事業計画書および収支予算書承認の件
- 第 6 号議案 2019 年度フェローの認定
- 第 7 号議案 第3回西田賞受賞者の認定
- 第 8 号議案 AOGS との相互参加の件
- 第 9 号議案 職員雇用契約更新の件
- 第 10 号議案 その他

3. 報 告 事 項

- 1. 川幡穂高代表理事職務報告
- 2. ウォリス・サイモン理事(グローバル戦略担当)職務報告
- 3. 田近英一理事(広報普及担当)職務報告
- 4. 古村孝志理事職務報告
- 5. 西 弘嗣理事(総務担当)職務報告
- 6. 大会運営委員会関連報告
- 7. 2020 年-2022 年の大会収支の見通しについて
- 8. 危機管理 WG 活動報告
- 9. 教育検討委員会報告
- 10. 環境災害対応委員会報告
- 11. 情報システム委員会報告
- 12. ダイバーシティ推進委員会報告
- 13. ジャーナル編集委員会報告
- 14. その他

4. 閉 会

(資 料)

前回議事録

平成 30 年度第 6 回理事会議事録	P. 1-7
-------------------------------	--------

審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件	P. 8-24
第 2 号議案 賛助会員入会承認の件	P. 26
第 3 号議案 委員承認の件	P. 27-28
第 5 号議案 2019 年度事業計画書および収支予算書承認の件 2018 年度第三回財務委員会議事録. 2019 年度予算書 (案) 事業計画書および事業報告書 (案)	P. 29-30 P. 31-32 別添
第 6 号議案 2019 年度フェローの認定 フェロー審査委員会議事録 2019 年度フェロー候補者一覧	P. 33-34 別添
第 7 号議案 第 3 回西田賞受賞者の認定	別添

報告事項

1. 川幡穂高代表理事職務報告 協力国際学会比較 JNT0 国際会議誘致貢献賞受賞報告	P. 35-38 P. 39-50
2. ウォリス・サイモン理事 (グローバル戦略担当) 職務報告 TGU に関する資料	P. 51-62
3. 田近英一理事 (広報普及担当) 職務報告	P. 63-65
4. 古村孝志理事職務報告	P. 66-74
5. 西 弘嗣理事 (総務担当) 職務報告 平成 30 年度後援等一覧 小惑星探査機「はやぶさ 2」の小惑星離着陸成功に関する声明	P. 75 P. 76-77
6. 大会運営委員会関連報告	P. 78-79
7. 2020 年-2022 年の大会収支の見通しについて	P. 80
8. 危機管理 WG 活動報告	P. 81
9. 教育検討委員会報告	P. 82-83
10. 環境災害対応委員会報告	P. 84-86
11. 情報システム委員会報告	P. 87
12. ダイバーシティ推進委員会報告	P. 88
13. ジャーナル編集委員会報告	P. 89-90

その他

規則	別添
--------------	----

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 30 年度第 6 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 31 年 1 月 15 日（火）
午後 15 時 00 分から午後 19 時 00 分
2. 開催場所 東京大学理学部 1 号館 336 号室
（東京都文京区本郷 7-3-1）
3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 17 名（定足数 11 名 会議成立）
4. 議長 理事 川幡 穂高
5. 出席役員
理事 市川 洋
理事 ウォリス サイモン
理事 小口 千明
理事 川幡 穂高
理事 河宮 未知生
理事 木村 学
理事 倉本 圭（Zoom 出席）
理事 中村昭子（Zoom 出席）
理事 成瀬 元（Zoom 出席）
理事 田近 英一
理事 中村 正人
理事 浜野 洋三
理事 日比谷 紀之
理事 古村 孝志
理事 松本 淳（Zoom 出席）
理事 道林 克禎
理事 村山 泰啓
監事 加藤 照之
監事 氷見山幸夫

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 高橋 幸弘

固体地球科学セクションバイスプレジデント 大谷 栄治

水文・水資源学会 飯田真一（寶 馨学協会会長会議議長 代理 Zoom 出席）

午後 15 時 00 分、定数に達したので川幡穂高会長が開会を宣した。インターネット電話 ZOOM を利用し、遠隔地から参加する倉本理事、中村昭子理事、成瀬理事、飯田真一委員が審議に参加できることを確認した。

7. 審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を審議した。これを承認した。

第 2 号議案 寄附について

川幡会長から寄附に関するタスクフォースの設置について提案があり、審議した。古村副会長を委員長として、会長、副会長、事務局長、総務委員長、財務委員長、財務担当事務局員、その他寄附について見識の深い方をメンバーとするタスクフォースの設置を検討し、これを承認した。基本的に、寄付に関する方針や実際の手続きに関する部分と可能であれば本年度までの寄付をベースに税額控除団体となる 2 つのテーマで議論を行う。特に、後者については、コミュニティ（代議員と JpGU 会員）向けに税額控除の制度や寄附の使途について説明する文章を検討することとなった。

第 3 号議案 2020 年 JpGU 大会準備のためのタスクフォースの設置について

川幡会長より 2020 年 JpGU 大会準備のためのタスクフォースの設置について提案があり、これを承認した。タスクフォースのヘッドは末広潔国際プログラムコーディネータに依頼する。メンバーについては各委員会から推薦を募るが、次世代へのバトンタッチができるよう積極的に若い方の推薦を募る方針で対処する。さらに、委員のダイバーシティも重点をおく方針を確認した。なお委員として財務委員会からの委員を、アドバイザーに情報システム委員会委員長を追加する。

第 4 号議案 2016 年-2018 年 JpGU 大会の実施状況についての報告文

前回理事会で 2016 年大会から 2018 年大会の実施に関する財政状況の整理と 2019 年以降の大会の運営方針について会員に示すことが承認された。この報告分の文案について審議

した。基本的には承認とし、細部の文言を微調整して公表する。公表の仕方については、概要と詳細編にわけると、会員になるべく内容を伝達できよう努力することとなった。

第 5 号議案 所属機関払いによる支払い方法の改廃の検討について

現在、年会費、大会参加登録費、投稿料の決済方法としては基本的にクレジット払いにて受け入れている。ただしクレジット払いの難しい会員のために機関振込（請求書払い）を用意している。この機関振り込みの場合、機関からの振込が通常の支払い締め切りよりもかなり後になったり、会員名の確認に時間・経費コストがかかるという問題ある。また個人の支払いの場合は振込の場合事務手数料を申し受けているので、不平等となっている。したがって、この機関振込（請求書払い）を改廃することを検討した。JpGU は公益社団法人なので、公平性と効率性を高める観点から AGU、EGU 等の国際学会の原則と同様に、基本的に「支払いの完了者が大会に参加する」こととする。今年一年を周知期間として、来年の大会から機関振込（請求書払い）廃止することとした。

第 6 号議案 2019 年度の予算

ダイバーシティ推進委員会の予算について、保育ルームの費用が前回の予算案では抑えられないことがわかり、委員会との面談を行った結果、上方修正をおこなった。プレジデンシャルレセプションの予算についても同様の処置をすることとなった。
基本的に承認とした。

第 7 号議案 教育検討委員会教員養成等検討小委員会の廃止

教育検討委員会教員養成等検討小委員会の廃止を検討した。これを承認した。

第 8 号議案 フェロー審査委員長承認の件

フェロー審査委員長を承認した。
なおフェロー審査委員会規則第 6 条に基づき、現段階では公表しない。

第 9 号議案 西田賞審査委員長承認の件

西田賞審査委員長を承認した。
なお審査委員会規則第 6 条に基づき、現段階では公表しない。

第 10 号議案 男女共同参画学協会連絡会からの要望書および声明文の修正案

前回理事会で承認した男女共同参画学協会連絡会からの要望書および声明文について、他学会からの提案を踏まえた修正案を検討した。これを承認した。

7. 報告事項

1. 川幡穂高代表理事職務報告

Geoethics（ジオエシックス）に関連し、古村副会長を委員長とするタスクフォース設置の提案があり、これを承認した。Geoethics については、ハラスメントの他に、地質災害や気候変動研究と社会の関係、地球惑星科学に関する倫理、オープンサイエンスに関する倫理などを中心に検討を始めることとなった。メンバーについては今後、検討する。最終的に、2020 年の JpGU-AGU 共同開催時にユニオンセッションなどで、成果を発表できればと期待している。学協会長会議幹事会の活動について報告があった。関連学会の学会員数の動向調査について検討中であるが、現状としては検討が遅れている。

連合大会での参加者アンケートについて、3 月までに案を作成し連合大会で実施し参加者の意向をきちんとくみ取ろうということとなった。

2. ウォリス理事（グローバル戦略担当）職務報告

グローバル戦略委員会の活動報告があった。AGU Fall Meeting 期間中に AGU 執行部との breakfast meeting、JpGU-AGU joint meeting に関する打ち合わせを行った。

AGU Fall Meeting の参加・出展報告があった。

EGU との MOU の更新について検討している。現在では EGU 側には会員にならなくても会員料金で JpGU 大会に参加できる。2 年の契約を結び、2 年後の契約時には改訂を検討する。

オープンサイエンスに関する世界情勢について情報交換があった。

JSPS のワシントンオフィス訪問の報告があった。

2020 年の JpGU-AGU 共同開催時に向けて、グローバル戦略委員会と JpGU 大会準備のためのタスクフォースが共同で会議をもち、その理念などについて検討することとなった。その議論を進める上での key words として「Anniversary」、「アジア」、「夢ロードマップ」などがコメントとして提示された。

3. 田近英一理事（広報普及担当）職務報告

広報普及委員会の活動報告があった。12 月 27 日に開催した高校生のための冬休み講座 2018 の開催報告があった。

4. 西 弘嗣理事（総務担当）職務報告

日比谷理事が代理で報告を行った。連合が承認した協賛、後援について報告があった。国立大学教育研究評価委員会専門委員及び機関別認証評価委員会専門委員の候補者の推薦については募っていたが推薦依頼がなかったため、連合からは推薦しないということとした。

また事業計画・事業報告を作成しており、事業計画は 3 月理事会、事業計画は 5 月の理事会に提出する。

5. 大会運営委員会活動報告（浜野理事）

2019 年大会準備状況について報告があった。会員システムの業者変更により、システムのメンテナンス期間を設け、データの移行を行った。現在は正常に機能している。

大会についての連絡事項はメールマガジンに網羅して掲載しているが、新プライバシーポリシーに同意していない会員委はメールマガジンが送られていないので、プライバシーポリシーには同意してほしい。またそれらの方のお知らせを届ける方法は今後も検討する必要がある。

今大会からシニアの参加登録費が有料となったことについて報告があった。

SNS を利用したポスター発表の募集を開始したことについて報告があった。

学割承認の締め切りを 5 月 8 日に設定したことについて報告があった。以降は学生であっても学生割引が適用されず、一般料金でのみ参加登録が可能となるため、締切については周囲の皆様にも注意喚起をお願いしたいという依頼があった。

法律改正によるセキュリティ強化対応のための大会受付運営の変更について報告があった。昨年までは PC を用意して、e チケットの印刷を忘れた方や現地での参加登録に対応していた。しかし割賦販売法の改正により、運営側が用意した PC にクレジットカード情報を入力させることができなくなった。これによって従来のような PC コーナーを用意しないこととなった。ただどうしても必要な参加者のため、受付周辺に代行窓口を設けることとした。ただしこの代行作業には事務手数料がかかる。

6. 危機管理検討 WG 活動報告（道林理事）

危機管理検討ワーキンググループの活動について報告があった。前回の理事会で承認された通り、連合大会の非常時対応についての文章を作成し、参加登録開始と同時に公開した。現在マニュアルについてもグループで制作中である。

7. 教育検討委員会活動報告（市川理事）

教育検討委員会の活動報告があった。

- ・平成 30 年度教員免許状更新講習を実施した。2 講習を用意したがそのうち 1 講習は申込者がなかったため、1 講習のみの実施となった。告知に不足があったため、2019 年度からは更新の必要な教員が増えることもあり、告知に力を入れることを検討中である。
- ・第 11 回日本地学オリンピック予選を実施した。
- ・第 13 回科学地理オリンピック日本選手権第 1 次選抜試験を実施した。
- ・日本学術会議地球惑星科学委員会地球惑星科学人材育成分科会を開催した。
- ・アースサイエンスウィーク・ジャパン 2019 開催に向けて準備を検討している。
- ・連合 2019 年大会パブリックセッションの開催に向けて準備を進めている。
- ・教育検討委員会のホームページを開設した。地学教育に関する情報を共有していく予定である。

8. 顕彰委員会活動報告

現在の連合フェローの人数について検討があった。現在のフェローは95名である。当初会員の1%程度という目標を定めており、これは現在80名程度になるため、すでに超過している。

今回のフェローもすでに募集しているので、極端な人数制限を設けることは難しい。10名以下程度を見込んでいるとの報告があり、了承した。

9. ジャーナル編集委員会活動報告（倉本理事）

ジャーナル編集委員会の活動報告があった。投稿受付、編集状況について報告があった。出版数は2017年から倍増している。

Springer との契約更新を行い論文契約料での投稿受付を開始した。また委員会開催広告があった。

10. その他

情報システム委員会から報告があった。

- ・日本学術会議で課題別委員会「オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会」が発足した。
- ・内閣府から閣議決定された統合イノベーション戦略に「知の源泉」としてオープンサイエンス関連の文章がもりこまれた。
- ・WDS のプロジェクト「CoreTrustSeal」が始動した。データ保存機構の国際的信頼認証をコミュニティベースの non-profit で立ち上げた。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。（午後19時00分）
以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席理事は次に記名・押印する。（捺印欄配布時省略）

平成31年1月15日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第6回理事会

出席理事

川幡

穂高

印

出席理事	市川	洋	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	小口	千明	印
出席理事	河宮	未知生	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	倉本	圭	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	中村	昭子	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	成瀬	元	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	日比谷	紀之	印
出席理事	松本	淳	印
出席理事	道林	克禎	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	村山	泰啓	印
出席監事	加藤	照之	印
出席監事	氷見山	幸夫	印

新入会員名簿

個人情報のため非公開とする

平成30年度会員数推移

正会員							准会員						大会ID				AGU会員			
	入会	変更(+)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数
3月末現在						8184						956				518				1572
4月	140	77	1		2	8398	71	77			6	944	82			600	6	1		1577
5月	216	60	1		1	8672	263	60	1		9	1137	530		4	1126	19			1596
6月	0			789	1	7882	1					1138	0			1126	2			1598
7月	4		5			7881	0				1	1137	0			1126	5			1603
8月	2	-1	2		1	7879	1	-1				1139			1120	6	20			1623
9月	8	4	6			7885	2	4	1		1	1135	8			14	11	2		1632
10月	29		4		1	7909	2		1			1136	21		2	33	9			1641
11月	6	3	5			7913		3	2			1131	5		1	37	16			1657
12月	3		2			7914	2		1			1132	8		5	40	28			1685
1月	183	19	7		2	8107	31	19	1		2	1141	123			163	58	2	1	1740
2月	475	14	24		7	8565	119	14			15	1231	407		3	567	141			1881
3月						8565						1231				567				1881
	1066	176	57	789	15		492	176	7	0	34		1184	0	1135		315	5	1	

1名、正会員から准会員へ変更

変更
准会員から正会員へ
正会員から准会員へ

2019/2/28 正会員
8565 名

准会員
1231 名

大会ID
567 名

AGU会員
1881 名

	団体会員			賛助会員		
	入会	退会	現会員数	入会	退会	現会員数
3月末現在			49			7
4月			49			7
5月			49			7
6月			49			7
7月			49			7
8月	1		50			7
9月			50			7
10月			50			7
11月			50			7
12月			50			7
1月			50			7
2月			50			7
3月						
	1	0	50	0	0	7

	全ID
3月末現在	11,230 名
4月	11,519 名
5月	12,531 名
6月	11,744 名
7月	11,747 名
8月	10,647 名
9月	10,666 名
10月	10,719 名
11月	10,732 名
12月	10,770 名
1月	11,151 名
2月	12,244 名
3月	名

公益社団法人日本地球惑星科学連合入会申込書（賛助会員・団体会員）

平成 31年 2月 28日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 会長 殿

日本地球惑星科学連合の事業を援助するため、賛助会員として入会を希望します。

団体名（正式名称） 日本語名	カクタス・コミュニケーションズ株式会社
英語名	CACTUS COMMUNICATIONS K.K.
代表者 氏 名	湯浅 誠
団体名 (HP等公開用)	
住 所（郵送物発送先）	〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-4-1 TUG-Iビル4階
Email	
活動内容	英文校正 学術翻訳 論文投稿サポート メディカル・コミュニケーション 日英文字起こし ウェブサイト制作 印刷物デザイン制作 リサーチ・コミュニケーション 動画撮影・制作 学術系PRコンサルティング 学術系ワークショップ・セミナー 学術系イベントサポート
申込み口数 (一口10,000円で年間3口以上)	3口 30,000円
担当者氏名	遠藤元基
住所	〒 同上
Email	endo@cactus.co.jp
TEL・FAX	03-6261-2290
連合ニュースレター誌 (JGL) 配布依頼可能部 数および依頼先住所	1 部 〒 同上
備 考（連絡事項など）	

※理事会で入会が承認されましたら、年会費請求書をお送りいたします。

PEPS編集委員(2018/3/5) 72名:日本人編集委員 41名、外国人編集委員 31名

General Chief Editor	Affiliation	Science Society
井龍康文	東北大学大学院理学研究科地学専攻	地球生命科学

Section Chief Editors	Affiliation	Science Society
川幡穂高	東京大学大気海洋研究所	日本地球化学会
吉岡祥一	神戸大学 都市安全研究センター	日本地震学会
河宮未知生	海洋研究開発機構地球環境変動領域	大気水圏科学
多田隆治	東京大学大学院理学系研究科	大気水圏科学
松本淳	首都大学東京大学院都市環境科学研究科	地球人間圏科学
倉本 圭	北海道大学大学院理学院宇宙理学専攻	宇宙惑星科学

Editors	Name	Affiliation	Science Society
	Lin-Ni Hau	Institute of Space Science, Department of Physics, National Central University, Taiwan	Space and Planetary Sciences
	Noriko Kita	Department of Geoscience, University of Wisconsin-Madison, USA	Space and Planetary Sciences
	Patrick Michel	Observatoire de la Cote D'Azur, France	Space and Planetary Sciences
	大竹真紀子	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部	日本惑星科学会
	長妻 努	情報通信研究機構	地球電磁気・地球惑星圏学会
	山本 衛	京都大学 生存圏研究所	地球電磁気・地球惑星圏学会
	Chung-Hsiung Sui	Department of Atmospheric Sciences, National Taiwan University	Atmospheric and Hydrospheric Sciences
	John P. Burrows	Institute of Environmental Physics and Remote Sensing IUP/IFE, University of Bremen, Germany	Atmospheric and Hydrospheric Sciences
	Mark Green	Center for the Environment, Plymouth State University, USA	Atmospheric and Hydrospheric Sciences
	Seok-Woo SON	School of Earth and Environmental Sciences, Seoul National University, Korea	Atmospheric and Hydrospheric Sciences
	池原 研	産業技術総合研究所地質情報研究部門	日本第四紀学会
	井上源喜	大妻女子大学社会情報学部	日本温泉科学会
	大手信人	京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻	水文・水資源学会
	岡 顕	東京大学大気海洋研究所	日本海洋学会
	岡本 創	九州大学九州大学応用力学研究所	大気水圏科学
	金谷有剛	海洋研究開発機構地球環境変動領域	大気化学研究会
	兒玉裕二	国立極地研究所	日本雪氷学会
	竹内 真司	日本大学文理学部地球科学科	
	三浦裕亮	東京大学大学院理学系研究科	大気水圏科学
	芳村 圭	東京大学生産技術研究所	水文・水資源学会
	Eduardo de Mulder	Earth Science Matters Foundation	Human Geosciences
	Junko Habu	Anthropology Department, University of California, Berkeley, USA	Cross-section
	Till Hanebuth	Coastal and Marine Systems Science, Coastal Carolina University, USA	Cross-section
	Mike Meadows	Department of Environmental & Geographical Science, South Lane, University of Cape Town, South Africa	Human Geosciences
	Nigel Tapper	School of Geography and Environmental Sciences, Monash University, Australia	Human Geosciences
	R.B.Singh	Department of Geography, University of Delhi, India	Human Geosciences

	Yuei-An Liou	Center for Space and Remote Sensing Research, National Central University, Taiwan	Human Geosciences
	菊地 俊夫	首都大学東京都市環境科学研究科	東京地学協会
	齋藤 文紀	島根大学 研究・学術情報機構エスチュアリー研究センター	
	千木良雅弘	京都大学防災研究所	地球人間圏科学
	早川 裕弐	北海道大学地球環境科学研究院	
	村山 祐司	筑波大学大学院生命環境科学研究科	地理情報システム学会
	Bjorn Mysen	Geophysical Laboratory, Carnegie Institute of Washington, USA	Solid Earth Sciences
	Colin J.N. Wilson	School of Geography, Environment and Earth Sciences , Victoria University, Australia	Solid Earth Sciences
	Craig R. Bina	Dept. of Earth and Planetary Sciences, Weinberg College of Arts and Sciences, Northwestern University, USA	Solid Earth Sciences
	Fenglinlin Niu	Department of Earth Science, Rice University	Solid Earth Sciences
	J. Bruce H. Shyu	National Taiwan University	Solid Earth Sciences
	J. Casey Moore	University of California, Santa Cruz, USA	Solid Earth Sciences
	James B. Gill	Environmental Studies Department, University of California Santa Cruz, USA	Solid Earth Sciences
	Mike Coffin	University of Tasmania, Australia	
	Paul Tackley	Department of Earth Sciences, ETH Zurich Institute fuer Geophysik, Switzerland	Solid Earth Sciences
	Peter Van Keken	Department of Terrestrial Magnetism Carnegie Institution of Washington, USA	Solid Earth Sciences
	Shun-ichiro Karato	Department of Geology & Geophysics, Yale University, USA	Solid Earth Sciences
	Toshiro Tanimoto	Department of Earth Science, University of California, Santa Barbara, USA	Solid Earth Sciences
	大谷栄治	東北大学大学院理学研究科地学専攻	日本鉱物科学会
	加藤照之	神奈川県温泉地学研究所	日本測地学会
	川勝均	東京大学地震研究所	日本地震学会
	サイモン・ウォリス	東京大学大学院理学系研究科	日本地質学会
	渋谷和雄	国立極地研究所	日本測地学会
	清水久芳	東京大学地震研究所	地球電磁気・地球惑星圏学会
	遠田 晋次	東北大学 災害科学国際研究所	Solid Earth Sciences
	中田節也	東京大学地震研究所	日本火山学会
	平島崇男	京都大学大学院理学研究科	日本鉱物科学会
	宮内崇裕	千葉大学大学院理学研究科	日本活断層学会
	八木 勇治	筑波大学生命環境系	日本地震学会
	渡辺 寧	秋田大学 国際資源学部	資源地質学会
	Heiko Palike	Centre for Marine Environmental Sciences, Bremen University , Germany	Cross-section
	Joseph Kirschvink	California Technology University, USA	Biogeosciences
	Mark Lever	Department of Environmental Systems Science, Institute of Biogeochemistry and Pollutant Dynamics, ETH Zürich, Switzerland	
	遠藤 一佳	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	日本古生物学会
	掛川 武	東北大学大学院理学研究科地学専攻	
	小林憲正	横浜国立大学大学院工学研究院	日本宇宙生物科学会
	高野 淑識	海洋研究開発機構	
新規	前田 拓人	弘前大学大学院理工学研究科地球環境学専攻	Solid Earth Sciences
新規	Frantisek Gallovic	Department of Geophysics, Faculty of Mathematics and Physics, Charles University in Prague, Czech	Solid Earth Sciences

2018年度第三回財務委員会

日時 2019.2.25 16:00-17:30

出席：中村、井出、掛川、河宮、渡辺（事務局）

記録：井出 （中村追記）

1. 2019年度 予算について

第一次案

収入：大会参加費は昨年実績を今年度投稿金額によってスライド。投稿料収入

微減の為、参加費も微減。

他も前年並み。増える見込みなし。

支出：給料-3M、バイト+2M。システム+1M。会場+4M。他の削減 11M のお

かげで全体として-4M

収支差額は前年比-4M。前年が-11M なので、今年は-7M（赤字）

第二次案

赤字とならない案を作成し、第1次案(赤字版)とともに理事会に提示。

2 / 26 昼までに中村が作成。見かけ上は収支0 予算となる

- ・会場費は 1M 程度改善 -> 4M 改善と設備機材 0.8M 改善
- ・参加者は 120 人程度増加か？ +2.5M

2. 今後の対応

3 月理事会に今後 3 年の大会予算を大会運営委員会に提出してもらう。

要求内容：

2020 AGU Joint、2021 横浜、その次

理事会ですべき議論：

JpGU は何をするのか？ 大会興業のみか？ 委員会活動は？

2019年 予算書（案） 0226赤字版

公益目的事業会計			
科 目	2018年度決算予想 (0223現在)	2019年予算(赤字版)	コメント
一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	¥1,694	¥1,600	
基本財産受取利息	¥1,694	¥1,600	
特定資産運用益	¥1,946	¥2,000	
特定資産受取利息	¥1,946	¥2,000	
受取会費	¥12,478,160	¥12,500,000	
当年度会費	¥12,478,160	¥12,500,000	
事業収益	¥151,624,330	¥151,381,207	
学術大会収益	¥151,426,830	¥150,533,707	大会収益は¥893,123の減益
大会参加料収入	¥102,785,680	¥101,771,557	投稿料収入にスライド
投稿料収入	¥19,155,960	¥18,966,960	2019/2/22 19:48分現在実数
団体展示料収入	¥22,465,680	¥22,465,680	
大学インフォメーション収入	¥912,600	¥912,600	
書籍展示収入	¥1,351,080	¥1,351,080	
パンフレットデスク収入	¥64,800	¥64,800	
会議室使用料収入	¥2,623,860	¥2,623,860	
懇親会収入	¥671,320	¥671,320	
学協会出展料	¥421,200	¥421,200	
その他	¥974,650	¥1,284,650	
刊行事業収益	¥197,500	¥847,500	
JGL広告収入	¥197,500	¥847,500	
受取補助金			
受取寄付金	¥5,341,000	¥150,000	
地球惑星科学振興西田賞	¥5,000,000		
会員寄附	¥772,514	¥150,000	
雑収益	¥24,192	¥24,000	
受取利息	¥101	¥18,000	
その他	¥6,097	¥6,000	
指定正味財産より	¥838,260	¥1,300,000	指定正味財産に繰り入れた寄付金(¥1,300,000)
経常収益計	¥170,309,582	¥165,358,807	¥4,950,775の減益に見えるが西田賞500万円寄付が今年はないので実際にはほぼ0
(2) 経常費用			
事業費	¥174,521,728	¥167,200,945	
給料手当	¥25,651,740	¥23,800,000	退職者2名分の減少
法定福利費	¥3,446,961	¥3,000,000	
退職給付費用	¥510,000	¥360,000	
臨時雇用賃金	¥3,934,954	¥5,830,890	退職者2名の穴埋めに必要な時に派遣を想定
ホームページ作成	¥0	¥0	
その他アルバイト	¥3,934,954	¥5,830,890	
会議費	¥6,348,579	¥4,712,340	
旅費交通費	¥16,536,969	¥16,722,000	
通勤費	¥1,590,720	¥1,336,000	
交通費	¥14,946,249	¥15,386,000	
通信運搬費	¥3,128,054	¥3,852,225	
減価償却費	¥7,300,000	¥6,680,443	
消耗什器備品	¥0	¥100,000	
消耗品	¥2,090,288	¥3,231,140	決算仕訳で 管理から数字移動予定 決算最終数字が増額予定
保守費	¥4,637,400	¥6,427,772	システム移行に伴い サーバー利用料が100万円増額 ORCHID関係も増額 (¥1,790.3
印刷製本費	¥15,142,963	¥8,548,300	
プログラム編集費	¥475,200	¥2,852,620	
プログラム印刷製本費	¥2,496,420	¥0	
ポスター印刷費	¥207,408	¥213,500	
JGL印刷費	¥3,935,650	¥2,651,200	
ジャーナル印刷費	¥7,146,481	¥2,000,000	
その他	¥881,804	¥830,980	
図書費	¥30,000	¥50,000	教育検討委員会が増額
出展費	¥242,507	¥701,250	ジャーナル委員会が予算計上(2018年度は出展見合わせ)
賃借料	¥58,111,046	¥61,882,956	
事務所賃借料	¥2,983,248	¥3,103,248	
事務機賃借料	¥301,860	¥301,860	
大会会場費	¥32,313,802	¥35,390,380	大会会場費値上がり(¥3,076,578)
設備機材賃借料・設置費	¥21,903,567	¥22,779,468	
その他	¥608,569	¥308,000	
	¥0	¥0	
諸謝金	¥1,704,000	¥1,368,000	
租税公課	¥3,544,500	¥3,550,000	
支払手数料	¥3,747,116	¥3,558,000	
支払奨助金	¥870,000	¥1,050,000	
委託費	¥10,890,741	¥11,322,000	
システム関係	¥4,135,320	¥4,212,000	
その他	¥6,755,421	¥7,110,000	
表彰費	¥5,000,000	¥0	西田賞が今年度はない
雑費	¥525,330	¥270,000	
保険料	¥168,580	¥183,629	
広告宣伝費	¥300,000	¥0	
管理費	¥11,082,799	¥8,211,320	
給料手当	¥4,234,678	¥3,200,000	
法定福利費	¥0	¥300,000	
退職給付費用	¥0	¥0	
会議費	¥3,720	¥20,000	
旅費交通費	¥1,363,265	¥1,270,000	
通勤費	¥176,701	¥170,000	
交通費	¥1,186,564	¥1,100,000	
通信運搬費	¥556,421	¥224,300	
消耗什器備品	¥100,000	¥100,000	
消耗品費	¥1,055,623	¥269,020	
	¥0	¥0	
賃借料	¥956,408	¥800,000	
事務所賃借料	¥814,288	¥750,000	
事務機賃借料	¥92,120	¥50,000	
その他	¥50,000	¥0	
諸謝金	¥1,393,600	¥1,296,000	
租税公課	¥257,300	¥202,000	
保守費	¥706,214	¥100,000	
支払手数料	¥335,328	¥350,000	
雑費	¥70,242	¥80,000	
経常費用計	¥185,604,527	¥175,412,265	支出は(上記2つの増大要因があったにも関わらず、)節約をしたので1000万円減っています
当期経常増減額	¥-15,294,945	¥-10,053,458	
定期大会参加促進事業積立資金	¥4,000,000	¥4,000,000	
内閣府提出 収支差額	¥-11,294,945	¥-6,053,458	2018年赤字が大きかったので、今年は改善されているもののまだ600万円の赤字が残
一般正味財産増減額			
一般正味財産期首残高			
一般正味財産期末残高			
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取補助金			
受取寄付金(西田賞)			
特定資産運用益			
一般正味財産への振替額			
当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高			
指定正味財産期末残高			
Ⅲ 正味財産期末残高			

2019年 予算書（案） 0301黒字版

公益目的事業会計			
科 目	2018年度決算予 想(0223現在)	2020年予算(黒字 版)	コメント
一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	¥1,694	¥2,000	
基本財産受取利息	¥1,694	¥2,000	
特定資産運用益	¥1,946	¥2,000	
特定資産受取利息	¥1,946	¥2,000	
受取会費	¥12,478,160	¥12,500,000	
当年度会費	¥12,478,160	¥12,500,000	
事業収益	¥151,624,330	¥155,669,000	
学術大会収益	¥151,426,830	¥154,821,000	大会収益は310万円の増益
大会参加料収入	¥102,785,680	¥105,869,000	2018を基に投稿人数にスライド(3%増し)
投稿料収入	¥19,155,960	¥19,156,000	2019/2/22 19:48分現在実数
団体展示料収入	¥22,465,680	¥22,466,000	
大学インフォメーション収入	¥912,600	¥913,000	
書籍展示収入	¥1,351,080	¥1,351,000	
パンフレットデスク収入	¥64,800	¥65,000	
会議室使用料収入	¥2,623,860	¥2,624,000	
懇親会収入	¥671,320	¥671,000	
学協会出展料	¥421,200	¥421,000	
その他	¥974,650	¥1,285,000	
刊行事業収益	¥197,500	¥848,000	
JGL広告収入	¥197,500	¥848,000	
受取補助金			
受取寄付金	¥5,341,000	¥150,000	
地球惑星科学振興西田賞	¥5,000,000	¥0	
会員寄附	¥772,514	¥150,000	
雑収益	¥24,192	¥424,000	
受取利息	¥101	¥18,000	
その他	¥6,097	¥406,000	
指定正味財産より	¥836,260	¥1,300,000	指定正味財産に繰り入れた寄付金(¥1,300,000)
経常収益計	¥170,309,582	¥170,046,000	¥4,950,775の減益に見えるが西田賞500万円寄付が今年はないので実際には400万絵の増
(2) 経常費用			
事業費	¥174,521,728	¥161,978,000	
給料手当	¥25,651,740	¥20,500,000	退職者2名分の減少
法定福利費	¥3,446,961	¥3,000,000	
退職給付費用	¥510,000	¥360,000	
臨時雇用賃金	¥3,934,954	¥5,831,001	退職者2名の穴埋めに必要な時に派遣を想定
ホームページ作成	¥0	¥0	
その他アルバイト	¥3,934,954	¥5,831,000	
会議費	¥6,348,579	¥4,712,000	
旅費交通費	¥16,536,969	¥16,722,000	
通勤費	¥1,590,720	¥1,336,000	
交通費	¥14,946,249	¥15,386,000	
通信運搬費	¥3,128,054	¥3,852,000	
減価償却費	¥7,300,000	¥7,491,000	
消耗什器備品	¥0	¥100,000	
消耗品	¥2,090,288	¥3,301,000	決算仕訳で 管理から数字移動予定 決算最終数字が増額予定
保守費	¥4,637,400	¥6,507,000	システム移行に伴い、サーバー利用料が100万円増額 ORCHID関係も増額
印刷製本費	¥15,142,963	¥6,449,000	
プログラム編集費	¥475,200	¥2,853,000	
プログラム印刷製本費	¥2,496,420	¥0	
ポスター印刷費	¥207,408	¥214,000	
JGL印刷費	¥3,935,650	¥2,651,000	
ジャーナル印刷費	¥7,146,481	¥2,000,000	
その他	¥881,804	¥731,000	
図書費	¥30,000	¥50,000	教育検討委員会が増額
出展費	¥242,507	¥701,000	ジャーナル委員会が予算計上(2018年度は出展見合わせ)
賃借料	¥58,111,046	¥57,931,000	
事務所賃借料	¥2,983,248	¥3,103,000	
事務機賃借料	¥301,860	¥302,000	
大会会場費	¥32,313,802	¥32,314,000	昨年度並とした
設備機材賃借料・設営費	¥21,903,567	¥21,904,000	昨年度並とした
その他	¥608,569	¥308,000	
	¥0	¥0	
諸謝金	¥1,704,000	¥1,368,000	
租税公課	¥3,544,500	¥3,550,000	
支払手数料	¥3,747,116	¥3,558,000	
支払貸助金	¥870,000	¥1,050,000	
委託費	¥10,890,741	¥11,692,000	
システム関係	¥4,135,320	¥4,212,000	
その他	¥6,755,421	¥7,480,000	
表彰費	¥5,000,000	¥0	西田賞が今年度はない
雑費	¥525,330	¥72,000	
保険料	¥168,580	¥1,181,000	
広告宣伝費	¥300,000	¥0	
管理費	¥11,082,799	¥8,211,000	
給料手当	¥4,234,678	¥3,200,000	
法定福利費	¥0	¥300,000	
退職給付費用	¥0	¥0	
会議費	¥3,720	¥20,000	
旅費交通費	¥1,363,265	¥1,270,000	
通勤費	¥176,701	¥170,000	
交通費	¥1,186,564	¥1,100,000	
通信運搬費	¥556,421	¥224,000	
消耗什器備品	¥100,000	¥100,000	
消耗品費	¥1,055,623	¥269,000	
	¥0	¥0	
賃借料	¥956,408	¥800,000	
事務所賃借料	¥814,288	¥750,000	
事務機賃借料	¥92,120	¥50,000	
その他	¥50,000	¥0	
諸謝金	¥1,393,600	¥1,296,000	
租税公課	¥257,300	¥202,000	
保守費	¥706,214	¥100,000	
支払手数料	¥335,328	¥350,000	
雑費	¥70,242	¥80,000	
経常費用計	¥185,604,527	¥170,189,000	システム移行の為に保守費が増額となって居るが節約をしたので1500万円減っている
当期経常増減額	¥-15,294,945	¥-144,000	
定期大会参加促進事業機立費	¥4,000,000	¥4,000,000	
内閣府提出 収支差額	¥-11,294,945	¥3,856,000	386万円の黒字
一般正味財産増減額			
一般正味財産期首残高			
一般正味財産期末残高			
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取補助金			
受取寄付金(西田賞)			
特定資産運用益			
一般正味財産への振替額			
当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高			
指定正味財産期末残高			
Ⅲ 正味財産期末残高			

日本地球惑星科学連合フェロー審査委員会 2019 年度第 1 回会議 議事録

開催日時：2019 年 2 月 14 日(木)13:30～15:30

開催場所：学会センタービル 4F 会議室

出席委員：フェロー審査委員 5 名（うち 3 名 ZOOM 出席）

出席オブザーバー:担当理事 中村正人 中村昭子 成瀬元 ウォリス サイモン

議事

開始予定時刻となったため、中村昭子理事が議長席に着き、仮議長として会議の開始を宣言した。

議事 1. 自己紹介

委員の自己紹介を行った。

議事 2. 委員長の選定

フェロー審査委員会規則第 3 条 2 項に基づき、会長より推薦のあった委員を委員長として選定した。

議長を委員長へ交代した。

議事 3. 規則及び経緯の説明

担当理事より、フェロー関連規則の説明と過去のフェロー審査の経緯について説明があった。

中村昭子理事より、第 6 回理事会にて「現在のフェローは 95 名である。当初会員の 1%程度という目標を定めており、これは現在 80 名程度になるため、すでに超過している。」との議論があったことが報告された。10 名以下程度が望ましいという点を考慮に入れ審査を行うこととした。

議事 4. フェローの選考

推薦のあったフェロー候補者の中からフェローを選考した。現段階で 9 名をフェローとして理事会へ推薦することを決定した。

他 1 名について、担当セクションの委員が再度精査し、諾否をメール会議に諮ることとした。

全ての議論を終え、議長は閉会を宣言した。

以上

日本地球惑星科学連合フェロー審査委員会 2019 年度第 2 回会議 議事録（案）

開催日時：2019 年 2 月 23 日（土）から 3 月 1 日（金）

開催場所：（メール会議）

参加委員：フェロー審査委員 5 名

オブザーバー：担当理事 中村昭子 成瀬元 中村正人 ウォリス サイモン

議事

委員長の依頼を受けて中村昭子担当理事が議長として、2 月 23 日（土）にメールを送信し、審議を開始した。なお全てのメール送信には委員およびオブザーバーをメンバーとするメーリングリストを用いた。

議事 フェローの選考について

前回第 1 回の議事に基づき、保留となっていた 1 名の候補者について、担当委員がこの 1 名についてフェローに推薦しないとの意見を提出し、これをもとに全委員により審議をした。

全会一致でこの提案を承認した。

全ての議論を終え、議長は 3 月 1 日（金）に閉会を宣言するメールをメーリングリストに送信した。

以上

EGU

投稿	EGU 会員のみ可
参加登録	JpGU 会員は EGU 会員料金で参加可能
シニア	(資格) EGU メンバーで 60 才以上で常勤でないこと (料金) シニア会員は学生と同額、会員以外のシニアは 35%程度割引

AGU

投 稿	AGU 会員のみ可 ※Co-sponsored session の場合、JpGU 会員は投稿可能（別途要連絡）
参加登録	JpGU 会員は AGU 会員料金で参加可能
シニア	(資格) 65 才以上で常勤でないこと (料金) シニア会員は学生と同額、会員以外はシニア枠なし

AOGS（会員の考え方なし）

投 稿	誰でも可能（参加料金に投稿料 2 本分含む）
参加登録	参加初年度：通常料金（New member） 2～4 年目：割引料金（Current member） JpGU 会員は初年度より割引料金
シニア	(資格) 60 才以上で not more than 10% full time in a professional capacity (料金) 通常料金（Current）より 35%程度割引

JpGU

投 稿	会員・非会員を問わず可能。投稿料も同額。
参加登録	AGU、EGU、AOGS 会員は JpGU 会員料金で参加可能
シニア	(資格) 70 才以上 (料金) シニア会員は学生と同額、会員以外はシニア枠なし

※各協力学会との MOU には参加料・投稿料の会員料金適用については記載はなし。

JpGU は歴史的経緯により、会員・非会員を問わず広く投稿を受け付けている。

<AGU>

<https://fallmeeting.agu.org/2018/?s=co-sponsored>

First Author Policy

First authors can have a maximum of one (1) contributed and one (1) invited abstract or two (2) invited abstracts. The only exemption to this policy is the submission of one (1) additional contributed abstract to a GeoHealth (GH), Education (ED) or Public Affairs (PA) session.

Author Guidelines

The person submitting the abstract will automatically be the first author. You may not submit an abstract on behalf of another author. The first author cannot be modified for any reason. The first author, including invited authors, **MUST** be an AGU member. Coauthors or presenting authors who are different than the first author are not required to be an AGU member.

The abstract submission fee is separate from membership dues. If paying for membership by credit card, you will have immediate access to the abstract submission system to submit your abstract.

The abstract submitter is responsible for ensuring that all coauthors have agreed to be listed on the abstract.

A research team may be referenced during the submission process in the “Title of Team” field, in lieu of adding the names of individual team members.

Do you think your abstract is newsworthy? Would it be of interest to the press and public? Tell AGU’s public information office about it here: <https://news.agu.org/publicity-for-fall-meeting-abstracts/>

AGU Membership

The first author, including invited authors, **MUST** be an AGU member. Coauthors or presenting authors who are different than the first author are not required to be an AGU member.

If you have a question on your membership status, need to join or renew, or need assistance with your AGU membership account, contact the AGU Membership Services Team by email or call 800.966.2481 (toll-free in North America) or +1 202.462.6900.

Note to Members of Co-operating Societies: AGU has agreements with select organizations to “sponsor” sessions within specified sections. If a session proposal is co-sponsored by one or more of these societies, this is used as a reference tool for those societies and the attendees to see which sessions will apply to members or constituents of the co-sponsoring societies.

Members of these societies may join AGU or submit abstracts to the sessions co-sponsored by their respective societies. Members (who are not AGU members) must contact the AGU Member Service Center by email or by calling +1 800.966.2481 (toll-free in North America) or +1 202.462.6900 by Wednesday, 18 July 2018 to request log-in credentials in order to submit an abstract to their societies' co-sponsored sessions.

<EGU>

How to submit an abstract

Thank you very much for your interest in the EGU General Assembly 2019. Please follow the guidelines on this page for the submission of your abstract. The abstract deadline is 10 January 2019, 13:00 CET. Please note that an abstract processing charge (APC) of €40 gross per abstract is levied. Abstracts submitted to the GIFT workshop are exempted from the APC. In any case, all first authors of abstracts submitted to the General Assembly 2019 have to be a 2019 EGU member. The membership can be acquired separately or upon abstract submission.

Abstract submission recipe

Use a text editor of your choice to compile your abstract: title, author(s), affiliation(s) of author(s), and abstract text. Your abstract body should have 100–500 words.

Browse through the session programme and select the session of your interest.

Use the abstract submission link at the respective session. Please keep in mind that submission of the same abstract to more than one sessions is not allowed. Duplicates will be rejected.

You will be asked to log in to the Copernicus Office Meeting Organizer. Use your account data or create a new account.

Fill in the submittal information about title, author(s), and affiliation(s) of author(s).

Choose between plain text, LaTeX, or Word content with regard to the abstract text.

Please remember that a LaTeX submission only refers to general LaTeX commands directly inserted into the form (e.g. formatting commands like superscripts and subscripts, and special characters). Style packages and environment commands cannot be considered and must not be included in the form.

For Word content, please copy-and-paste your information into the form or download and use the Word template.

Select your preference for poster presentation or for oral presentation. However, please be aware that there is no guarantee that an oral preference can be realized. If a session is identified as a PICO session, the oral/poster preference cannot be selected as the abstract is automatically marked as PICO.

Accept the licence & copyright agreement as well as the rules of conduct and proceed to the abstract preview.

Check the generated PDF file of your edited and formatted abstract. Please note that this PDF is only a preview file (indication "PREVIEW" is highlighted in the abstract header) to enable you to check the input. Close the PDF preview and click on "Payment" to proceed.

In case of a successful submission, a confirmation message including your abstract number will be displayed and you will receive an abstract submission confirmation email.

If the conversion of your abstract fails, please specify your problems and we will then take care of them.

In any case, please indicate your invoice details for the APC (see below). If the first author of the abstract has not yet become an EGU member, the abstract submission form requires you to pay the membership in addition to the APC. You will then receive two separate invoices for the APC and the membership fee.

Submit your abstract. You will receive a confirmation email providing your abstract number. Should you not receive the abstract submission confirmation email within 24 hours, please check your spam folder first and then contact us at: egu2019@copernicus.org.

In case any questions arise, please do not hesitate to contact us at: egu2019@copernicus.org.

<AOGS>

All presenters (including Invited Speakers) must register online to confirm their attendance.

Authors/Presenters

It is expected that at least one author attends the meeting to present the accepted abstract.

Authors whose abstracts are accepted must register their meeting attendance & pay fees (if applicable) by the author registration deadline

At the time of registration, the IDs of the abstracts to be presented must be provided.

Otherwise, the abstract is considered NOT registered and risks being withdrawn.

Each registration fee covers TWO presentations maximum.

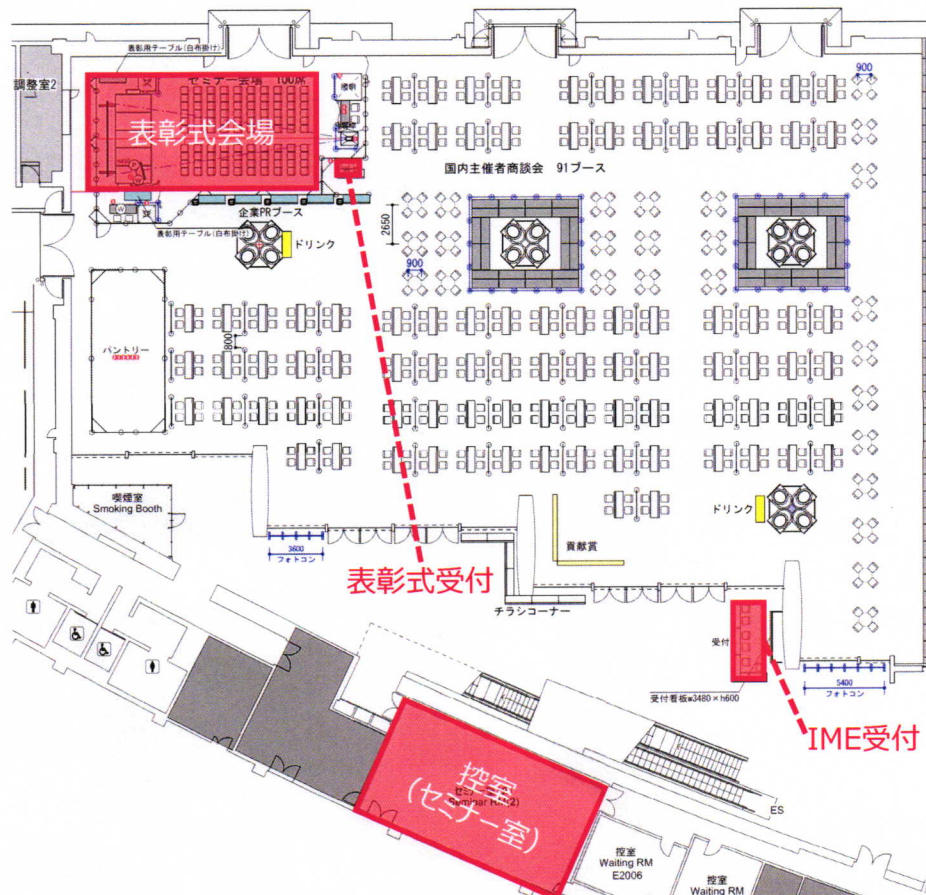
An additional registration fee applies for each abstract in excess of the TWO presentations/abstracts.

■平成30年度 日本政府観光局(JNTO)国際会議誘致・開催貢献賞」表彰式について

- 名称 : 平成30年度「日本政府観光局(JNTO) 国際会議誘致・開催貢献賞」表彰式
- 開催日時 : 2019年2月28日(木)14:45~15:45
- 実施会場 : 東京国際フォーラム ホールE2(東京都千代田区丸の内3-5-1)
昼食会・東京国際フォーラム ガラス棟 G510
表彰式・ホールE2
- 主催 : 日本政府観光局(JNTO)
- スケジュール : 14:45 開会
14:53頃 国際会議 誘致の部 表彰
15:07頃 国際会議 開催の部 表彰
15:28頃 写真撮影
15:45 閉会

■会場のご案内

■B1Fレイアウト



- 進行のご説明をさせて頂いた後、14:30頃、表彰式会場へご移動いただきますのでお時間までお待ちください。
会場へは、スタッフがご案内させていただきます。
皆様には胸章とIME受付を通る際に必要なVIPパスをお渡しいたしますが、
記念撮影がありますので、表彰式開始前にVIPパスは外し、胸章のみ付けたまま表彰式にご参加ください。
- 受賞者の皆様のお席は指定席となっております。会議名とお名前が書かれたお席にご着席ください。
- 表彰式終了後、お荷物は16:30まで置いておくことができますが、貴重品の管理はご自身で行っていただきますようお願いいたします。

■ 記念撮影について

4

・表彰式 集合写真並び順

※個別の写真撮影について

- ・撮影時は表彰盾をお持ちいただく
- ・撮影後はスタッフから表彰状を受け取り、自席へお戻りいただく
- ・2名で登壇の場合、賞状と盾をお持ち頂く。



国際会議誘致の部 集合写真 (受賞者7名+清野理事長・来賓 計11名)

2名で受賞の方
表彰状を二人で
お持ちいただく



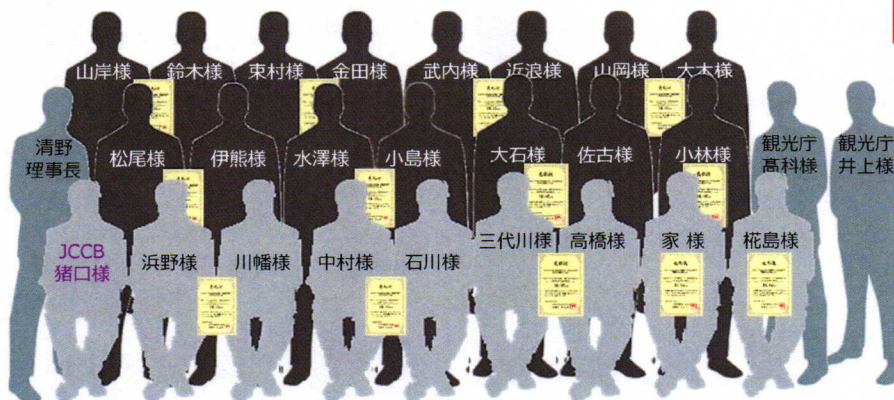
国際会議開催の部 集合写真 (受賞者16名+清野理事長・来賓 計20名)

2名で受賞の方
表彰状を二人で
お持ちいただく



受賞者全員での記念撮影 (受賞者23名+清野理事長・来賓 計27名)

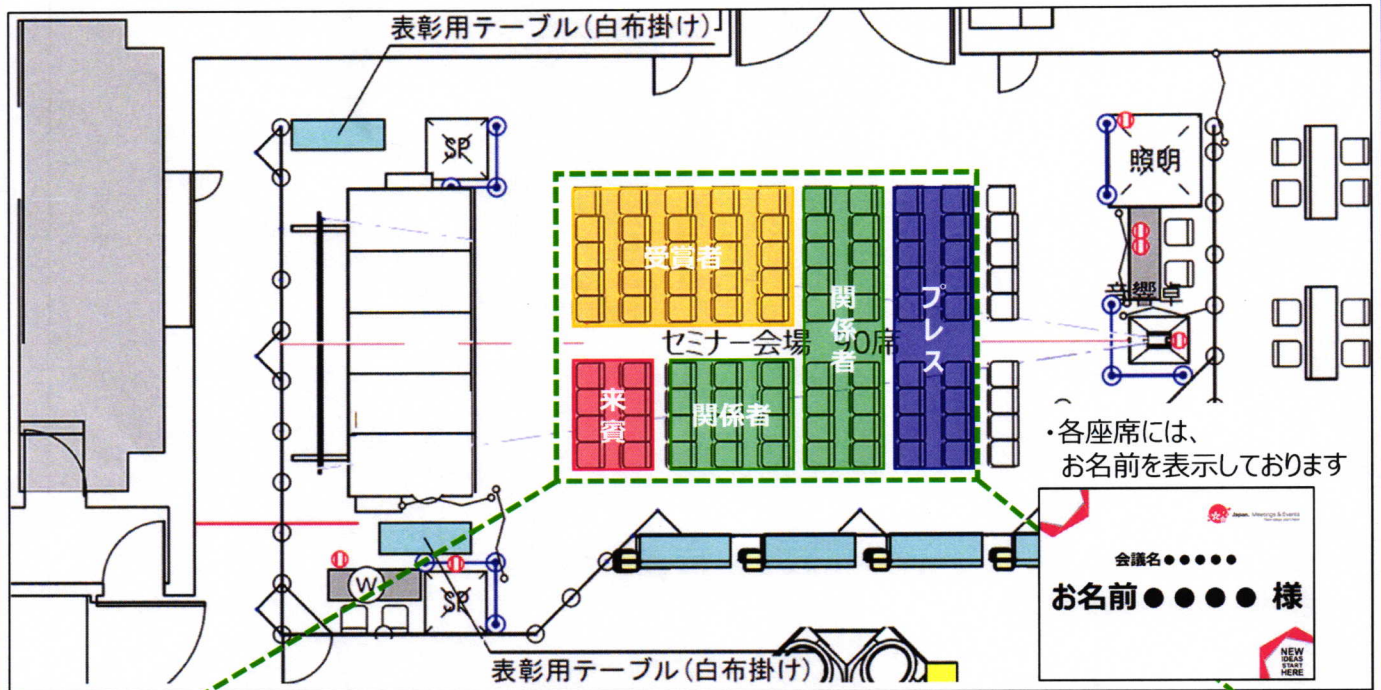
2名で受賞の方
表彰状を二人で
お持ちいただく



■表彰式次第

時間	LAP	プログラム	登壇者	進行概要
「日本政府観光局（JNTO）国際会議誘致・開催貢献賞」表彰式				
14:00	30'	14:00～受付開始		■表彰者、出席者受付開始 ■会場内入場開始
14:35		出席者ご着席		■出席者、受賞者、控室より移動。 所定の座席に着席
14:45	01'	開会	司会(高橋 咲代)	■司会者より開会挨拶
14:46	03'	主催挨拶 JNTO理事長挨拶	■日本政府観光局 理事長 清野 智（せいの さとし）	■清野理事長よりご挨拶
14:49	03'	ご来賓挨拶	■観光庁 審議官 高橋 淳（たかしな じゅん） 様	■観光庁 高橋 淳 様よりご挨拶
14:52	01'	誘致の部・概要紹介	司会	■国際会議「誘致の部」の概要紹介
14:53	02'	表彰① INORMS 2020年 世界大会	■広島大学 学術室 研究企画室 シニア・リサーチ・アドミニストレーター 三代川 典史（みよかわ のりふみ） 様 ■金沢工業大学 教授 高橋 真木子（たかはし まきこ） 様	■清野理事長より表彰状(全文読み上げ)、 盾の授与
14:55	02'	表彰② 国際光工学学会議 (天体望遠鏡と観測装置)	■自然科学研究機構 特任教授 委員長 家 正則（いえ まさのり） 様	■清野理事長より表彰状(以下同文)、盾の授与
14:57	02'	表彰③ 国際研究皮膚科学会 (ISID 2023)	■京都大学大学院 医学研究科皮膚科学教室 教授 梶島 健治（かじま けんじ） 様	■清野理事長より表彰状(以下同文)、盾の授与
14:59	02'	表彰④ 応用数理国際会議 (ICIAM 2023)	■日本応用数理学会・早稲田大学理工学術院 教授 大石 進一（おおいし しんいち） 様 ■日本応用数理学会会長・NEC 特別技術主幹 佐古 和恵（さこ かずえ） 様	■清野理事長より表彰状(以下同文)、盾の授与
15:01	02'	表彰⑤ 第34回 国際電波科学連合総会	■中央大学理工学部 教授 小林 一哉（こばやし かずや） 様	■清野理事長より表彰状(以下同文)、盾の授与
15:03	03'	受賞者代表挨拶①	■広島大学 学術室 研究企画室 シニア・リサーチ・アドミニストレーター 三代川 典史（みよかわ のりふみ） 様	■「誘致の部」受賞者代表よりご挨拶
15:06	01'	開催の部・概要紹介		■国際会議「開催の部」の概要紹介
15:07	02'	表彰① Gastech Conference and Exhibition 2017	■（代理）公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー MICE 第一事業部 部長 岩田 由美子（いわた ゆみこ） 様	■清野理事長より表彰状(全文読み上げ)、 盾の授与
15:09	02'	表彰② JpGU-AGU Joint Meeting 2017	■公益社団法人日本地球惑星科学連合 事務局長 浜野 洋三（はまの ようぞう） 様 ■公益社団法人日本地球惑星科学連合 会長 川幡 穂高（かわはた ほどか） 様	■清野理事長より表彰状(以下同文)、盾の授与
15:11	02'	表彰③ 第21回 国際疫学会総会	■自治医科大学 地域医療学センター 公衆衛生学部門 教授 中村 好一（なかむら よしかず） 様 ■自治医科大学 医学教育センター 副センター長・教授 石川 鎮清（いしかわ しずきよ） 様	■清野理事長より表彰状(以下同文)、盾の授与
15:13	02'	表彰④ 国際材料研究学会連合 先進材料国際会議2017	■京都大学 准教授 松尾 二郎（まつお じろう） 様 ■神奈川工科大学 名誉教授 伊熊 泰郎（いくま やすろう） 様	■清野理事長より表彰状(以下同文)、盾の授与
15:15	02'	表彰⑤ 第23回 世界神経学会議	■国立精神・神経医療研究センター 理事長 水澤 英洋（みずさわ ひでひろ） 様 ■内閣府日本学術会議事務局参事官・国際担当 小島 宗一郎（こじま そういちろう） 様	■清野理事長より表彰状(以下同文)、盾の授与
15:17	02'	表彰⑥ LAWASIA 東京大会2017	■リソルテ総合法律事務所 弁護士 山岸 憲司（やまぎし けんじ） 様 ■古賀総合法律事務所 弁護士 鈴木 五十三（すずき いそみ） 様	■清野理事長より表彰状(以下同文)、盾の授与
15:19	02'	表彰⑦ 第4回 国際生殖生物学会	■名古屋大学大学院生命農学研究科 教授 東村 博子（つかむら ひろこ） 様 ■東京農工大学大学院農学研究科 准教授 金田 正弘（かねだ まさひろ） 様	■清野理事長より表彰状(以下同文)、盾の授与
15:21	02'	表彰⑧ 第49回 国際PCO 協会年次総会	■株式会社コングレ 代表取締役社長 武内 紀子（たけうち のりこ） 様 ■日本コンベンションサービス株式会社 代表取締役社長 近浪 弘武（ちかなみ ひろたけ） 様	■清野理事長より表彰状(以下同文)、盾の授与
15:23	02'	表彰⑨ 世界天文コミュニケーション会議 2018 in 福岡	■自然科学研究機構 国立天文台 広報室長 山岡 均（やまおか ひとし） 様 ■福岡市 こども未来局科学館運営係長 大木 良一（おおき りょういち） 様	■清野理事長より表彰状(以下同文)、盾の授与
15:25	03'	受賞者代表挨拶②	■自治医科大学 地域医療学センター 公衆衛生学部門 教授 中村 好一（なかむら よしかず） 様	■「開催の部」受賞者代表よりご挨拶
15:28	17'	写真撮影		
15:45		閉会		

■表彰式席次

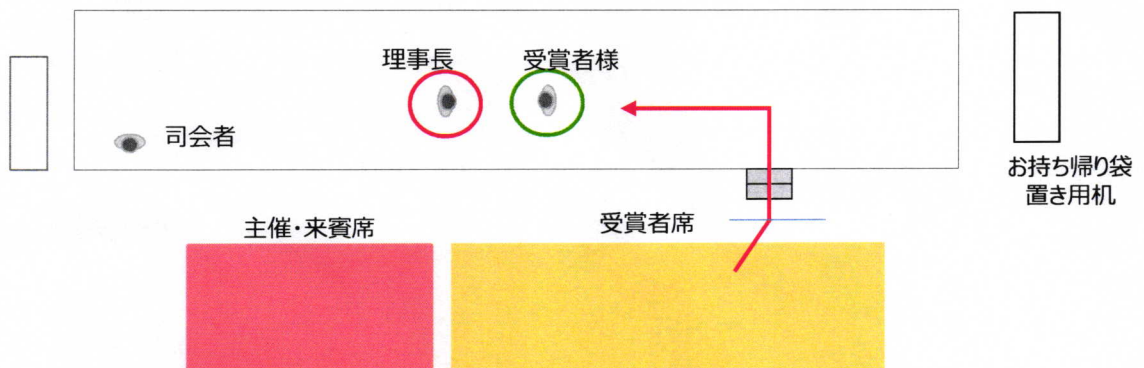


ステージ

JNTO 小堀	観光庁 高科様	JCCB 猪口会長	JNTO 清野理事長
学術会議 四方様	経産省 佐々木様	観光庁 井上様	JNTO 川崎
関係者	井佐原様	川島様	原様
関係者	観光庁 酒井様	観光庁 星野様	観光庁 青山様
関係者	関係者	関係者	関係者
関係者	関係者	関係者	関係者
プレス	プレス	プレス	プレス
プレス	プレス	プレス	プレス

大石様	梶島様	家 様	高橋様	三代川様
佐古様	小林様	岩田様	浜野様	川幡様
水澤様	伊熊様	松尾様	石川様	中村様
小島様	山岸様	鈴木様	東村様	金田様
西山様	大木様	山岡様	近浪様	武内様
井口様	関係者	関係者	関係者	関係者
関係者	関係者	関係者	関係者	関係者
プレス	プレス	プレス	プレス	プレス
プレス	プレス	プレス	プレス	プレス

■ご登壇について



- ・表彰時は、ステージ正面側にありますステップからご登壇ください
- ・先に表彰状、次に盾の順番でお受け取りいただきます
- ・1名でお越しの方は表彰状を受け取った際、介添えのスタッフが一度表彰状をお預かりいたします
- ・2名でお越しの方は、先に司会者がお名前をお呼びした方が表彰状、もうお一方が盾をお受け取りください
- ・贈賞後、その場でプレゼンターと記念差撮影をして頂きます
- ・表彰後、ご降壇の際も同じルートでお席へお戻りください

受賞会議			
会議名	和文) 第21回 国際疫学会総会		
	英文) The 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE2017)		
主催者	第21回国際疫学会総会組織委員会		
開催都市	さいたま市 (埼玉県)		
開催期間	2017年8月19日～22日 (4日間)		
参加人数 (うち外国人参加)	1,131名 (624名)	参加国数	58ヶ国・地域
受賞理由	●開会式で「和太鼓と書道」、パンケットでは「盆踊り」を企画し、日本らしさを演出したことが海外参加者の好評を博した。また、福島原発の現状や川崎病をテーマとする日本独自のセッションテーマを掲げ、日本開催のオリジナリティを発信できた。 ●発展途上国の若手研究者を対象に渡航費の援助を行い、高額な渡航費問題を解決できた。また、女性参加者への配慮(託児所の手配)や環境保護を考慮した開催計画など、細やかな部分まで行き届いた会議運営となった。 ●結核予防会総裁である秋篠宮妃殿下が開会式に臨席され、多数のメディアに取り上げられたことで、国内外で本会議に対する関心を引き起こした。		

受賞会議			
会議名	和文) 国際材料研究学会連合 先進材料国際会議2017		
	英文) IUMRS International Conference on Advanced Materials		
主催者	日本MRS、IUMRS-ICAM 2017 実行委員会		
開催都市	京都市 (京都府)		
開催期間	2017年8月27日～9月1日 (6日間)		
参加人数 (うち外国人参加)	1,878名 (773名)	参加国数	44ヶ国・地域
受賞理由	●6日間と比較的長い開催期間で、かつ計1800名以上の参加者が京都市に滞在したことにより、開催都市に経済波及効果をもたらした。 ●京都大学吉田南キャンパスでの開催となり、ノウハウが少ない中で近隣会場を有効に活用した。また、学生もアルバイトとして会議に携わり、学会のみならず学生にも幅広く活躍してもらう機会を提供できた。 ●懇親会では8名の芸舞妓の舞を披露したことにより、参加者に開催都市の京都らしい文化に触れられる場を提供し、日本開催の特色を発信できた。		

受賞会議			
会議名	和文) 世界天文コミュニケーション会議 2018 in 福岡		
	英文) Communicating Astronomy with the Public Conference 2018 -CAP2018 Fukuoka Japan-		
主催者	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台		
開催都市	福岡市（福岡県）		
開催期間	2018年3月24日～28日（5日間）		
参加人数 （うち外国人参加）	446名（197名）	参加国数	53ヶ国・地域
受賞理由	●能楽堂における会議参加者参加型のウェルカムイベント、バンケットにおける地元学生によるアトラクション、天体観測会や宇宙をテーマにした茶会の実施など、開催都市が一体となった取り組みで参加者へのおもてなしを行った。 ●学術関係の会議内容に加え、日本・福岡の多様な文化や景観をSNSを通じて国内外へ発信したほか、科学誌"Nature Astronomy"にも取り上げられ、開催都市のプレゼンスを大きく向上させた。 ●クラウドファンディングにより若手参加者や発展途上国からの参加支援を行うなど、資金運営面で優れた工夫を行った。		

平成30年度「日本政府観光局（JNTO）国際会議誘致・開催貢献賞」 受賞会議

■国際会議 誘致の部 5件

*開催予定順

創意工夫により効果的な誘致活動を行い、諸外国との競争の結果、日本への誘致に成功した国際会議。

受賞会議			
会議名	和文) INORMS 2020年 世界大会		
	英文) International Network of Research Management Societies 2020 Congress (INORMS 2020)		
主催者	リサーチ・アドミニストレーター協議会（RA協議会）INORMS2020大会実行委員会		
開催都市	広島市（広島県）		
開催期間	2020年5月25日～28日（4日間）		
参加予定人数 （うち外国人参加）	600名（450名）	参加予定国数	40ヶ国・地域
競合国（都市）	南アフリカ共和国（ケープタウン）		
受賞理由	●広島市、広島大学、広島観光コンベンションビューローの三者による国際会議誘致に向けた連携・協力協定が効果的に機能し、迅速な情報収集や支援体制整備が可能となった。 ●主催団体であるリサーチ・アドミニストレーター協議会のネットワークをいかし、国際会議開催経験を持つ国内外の有識者を誘致委員会のメンバー・アドバイザーとして迎え入れ、誘致計画書の作成支援や運営に対する助言を受けることを通じて効果的な誘致提案を行った。 ●研究支援専門職の分野では初のアジア開催であり、欧米地域よりは歴史の浅い日本の研究支援専門職の存在を対外的に示す機会となることが期待される。		

受賞会議			
会議名	和文) 国際光工学会会議（天体望遠鏡と観測装置）		
	英文) SPIE Astronomical Telescopes and Instrumentation 2020		
主催者	SPIE* ASTRO 2020 実行委員会 *The International Society for Optical Engineering		
開催都市	横浜市（神奈川県）		
開催期間	2020年6月14日～19日（6日間）		
参加予定人数 （うち外国人参加）	2,300名（2,000名）	参加予定国数	30ヶ国・地域
競合国（都市）	韓国（ソウル）、マレーシア（クアラルンプール）		
受賞理由	●これまで北米・欧州において交互に開催されていた大規模会議を初めて日本に誘致することに成功したものであり、開催都市の国際的なプレゼンスを大きく向上するものである。 ●過去3回にわたり誘致に取り組み、いずれも海外他都市へ決定していたが、4回目となる今回は、招致の中核に担われたMICEアンバサダー家正則教授、横浜コンベンションビューロー、パシフィコ横浜やDMCなどの強固な連携のもと、国際光工学会本部やコアPCOとの調整を経て、誘致に成功した会議である。		

受賞会議			
会議名	和文) 第23回 世界神経学会議		
	英文) XXIII World Congress of Neurology (WCN2017)		
主催者	第23回世界神経学会議組織委員会、日本学会会議		
開催都市	京都市（京都府）		
開催期間	2017年9月16日～21日（6日間）		
参加人数 （うち外国人参加）	8,617名（3,519名）	参加国数	120ヶ国・地域
受賞理由	●世界的な観光都市である京都への評価と期待が高まった結果、当初5,000名を想定していた参加人数の1.7倍となる8,617名が本会議に参加した。この参加者数は世界神経学会議の歴史において過去最多の人数となり、日本開催のメリットをアピールできただけでなく、開催地域への経済効果の波及にも大きく貢献した。 ●秋篠宮殿下・妃殿下のご臨席のもと盛大に開会式を行い、国内外で多くのメディアに取り上げられた結果、国際会議開催地としての京都のメディア露出が増え、日本のプレゼンスを高められた。 ●運営責任者である海外コアPCOとの緊密な連携が成果をあげ、京都へ様々な国際会議を誘致していくための足掛かりとなった。 ●まさに「完全試合」と言える開催と運営のため、大型国際会議開催時の手本となる取り組みが多数あった。		

受賞会議			
会議名	和文) LAWASIA東京大会2017		
	英文) 30th LAWASIA Conference – TOKYO 2017		
主催者	LAWASIA東京大会2017組織委員会		
開催都市	千代田区（東京都）		
開催期間	2017年9月18日～21日（4日間）		
参加人数 （うち外国人参加）	1,607名（621名）	参加国数	41ヶ国・地域
受賞理由	●大相撲観戦、着付け体験、呈茶体験など日本の魅力を発信するプログラムを企画したことに加えて、浅草へのエクスカーションも実施し、開催地である東京の魅力を発信できた。 ●法学部やロースクールの学生からボランティアを募り、当日の運営をサポートし、効率的な会議運営を図られた。また、プログラムの一環として「模擬裁判」を実施し、学生の会議参加を促進でき、法曹教育においても有意義な会議となった。 ●JNTOの寄附金交付金制度を利用したことにより、予想以上の寄附金を集めることができ、より効果的な会議開催となった。 ●皇太子殿下・妃殿下のご臨席により、会議の知名度が向上。国内外でのメディア露出を拡大し、国際会議の開催地としての日本をアピールすることができた。		

受賞会議			
会議名	和文) 第4回 国際生殖生物学会		
	英文) The Fourth World Congress of Reproductive Biology (WCRB2017)		
主催者	公益社団法人 日本繁殖生物学会		
開催都市	宜野湾市 (沖縄県)		
開催期間	2017年9月27日～30日 (4日間)		
参加人数 (うち外国人参加)	794名 (384名)	参加国数	32ヶ国・地域
受賞理由	● オープニングセレモニーにおける琉球演舞の披露や、プールサイドガーデンにおける懇親会の開催など、開催地域の魅力を広く参加者に発信した。 ● 前回大会や関連する国際学会で当会議の沖縄開催を積極的にアピールし、例年を大きく上回る参加者を集めた。 ● 今回の会議をきっかけに関連分野の研究集会の沖縄開催が決定するなど、開催地の長期的な学術・産業発展や経済効果の創出に資するものである。		

受賞会議			
会議名	和文) 第49回 国際PCO協会年次総会		
	英文) 49th IAPCO Annual Meeting and General Assembly		
主催者	第49回国際PCO協会年次総会 組織委員会		
開催都市	港区 (東京都)		
開催期間	2018年2月7日～10日 (4日間)		
参加人数 (うち外国人参加)	102名 (91名)	参加国数	32ヶ国・地域
受賞理由	● 32か国・地域の主要PCO (Professional Congress Organisers) が日本に集まり、会議開催地としての日本の魅力を見直すきっかけとなった。会議終了後のレガシー効果も高く、日本のプレゼンス向上につながった。 ● 会議専用のアプリとウェブサイトを活用により、ペーパーレス会議を心掛け、先進的かつ効率的な会議運営を行った。 ● 着物を着てガラディナーに参加できる着付けプログラムを用意し、会議参加者が直接日本文化に触れられる場を提供し、日本の魅力と特性を活かすことができた。 ● 国内外業界紙で会議開催の記事が掲載されたことにより、日本は会議開催地として注目を浴びた。		



受賞会議			
会議名	和文) 国際研究皮膚科学会 (ISID 2023)		
	英文) International Societies for Investigative Dermatology (ISID 2023)		
主催者	一般社団法人 日本研究皮膚科学会		
開催都市	新宿区 (東京都)		
開催期間	2023年5月10日～14日 (5日間)		
参加予定人数 (うち外国人参加)	2,500名 (2,000名)	参加予定国数	58ヶ国・地域
競合国 (都市)	韓国 (ソウル)		
受賞理由	●国内学会における学術大会を全て英語化するなど、長年取り組んできた国際化の取り組みにより世界各国の研究皮膚科学会とのネットワークを構築し、それらの実績を効果的に誘致へと結び付けた。 ●若手研究者をはじめ次世代の育成に向けた取り組みを発信したほか、国内学会でダイバーシティ・コミッティーを立ち上げ、ジェンダーバランスや多様な年代バランスを考慮した幅広い人材の参画に取り組んでいることを効果的にアピールした。 ●東京都、東京観光財団の財政的・実務的な支援を得るとともに、事前の情報収集やロビー活動を綿密に行い、盤石の体制で誘致活動を展開した。		

受賞会議			
会議名	和文) 応用数理国際会議 (ICIAM 2023)		
	英文) International Congress on Industrial and Applied Mathematics (ICIAM 2023)		
主催者	一般社団法人 日本応用数理学会・日本数学会		
開催都市	新宿区 (東京都)		
開催期間	2023年8月20日～25日 (6日間)		
参加予定人数 (うち外国人参加)	3,000名 (2,000名)	参加予定国数	70ヶ国・地域
競合国 (都市)	インド、ブラジル、韓国		
受賞理由	●学術研究者のみならず産業研究者をはじめ、日本各地の国内キーパーソンを巻き込み、国内26団体・組織からのサポートレーターを集めるなど、学術・産業・経済界のオールジャパン体制での誘致を行った。 ●早稲田大学を会場とすることで会場費を削減し、参加登録費を安く抑えたほか、幅広い価格帯の飲食・宿泊オプションの紹介を行うことで、コスト面における不安を払拭した。 ●開催都市の投票が行われるワークショップにおいて、若手研究者をはじめ日本人参加者が積極的に参加・発表を行うことで存在感を示し、効果的な誘致PR活動を行った。		

■国際会議 開催の部 9件

国際会議開催にあたり会議運営、地域貢献などにおいて、今後の模範となる実績を上げた国際会議

*開催順

受賞会議			
会議名	和文) —		
	英文) Gastech Conference and Exhibition 2017		
主催者	Gastech Japan 2017 Consortium		
開催都市	千葉市（千葉県）		
開催期間	2017年4月4日～7日（4日間）		
参加人数 （うち外国人参加）	2,344名（1,500名）	参加国数	96ヶ国・地域
受賞理由	●「Women in Energy（女性対象）」「Young Gastech（学生対象）」といった1dayプログラムを企画し、エネルギー業界のダイバーシティ推進に努めた。 ●地元千葉の支援と懸命な呼びかけ活動により過去最多の参加者数を記録し、約55億円（観光庁MICE簡易測定モデルにより算出）の経済効果を千葉県に及ぼした。 ●近隣大学の語学ボランティア学生やボランティア団体が会議に参加した。約40人のボランティアにMICE参画の機会を提供し、東京オリンピック・パラリンピックの会場となる幕張メッセにおけるボランティア醸成に貢献した。		

受賞会議			
会議名	和文) —		
	英文) JpGU-AGU Joint Meeting 2017		
主催者	公益社団法人 日本地球惑星科学連合		
開催都市	千葉市（千葉県）		
開催期間	2017年5月20日～25日（6日間）		
参加人数 （うち外国人参加）	8,450名（1,110名）	参加国数	48ヶ国・地域
受賞理由	●国内学会の連合大会が初めて海外学会（米国地球物理学連合：AGU）の連合大会と合同で開催した会議であり、今回の取り組みにより今後も定期的にジョイントミーティング開催の計画が持ち上がるなど、国内学会の国際化の例として高い意義を有するものである。 ●市民が参加できるパブリックデー、中高生向けの講演会や高校生によるポスター発表などのプログラムを設け、一般市民・学生への知の還元に積極的に取り組むなど、優れた運営を行った。		

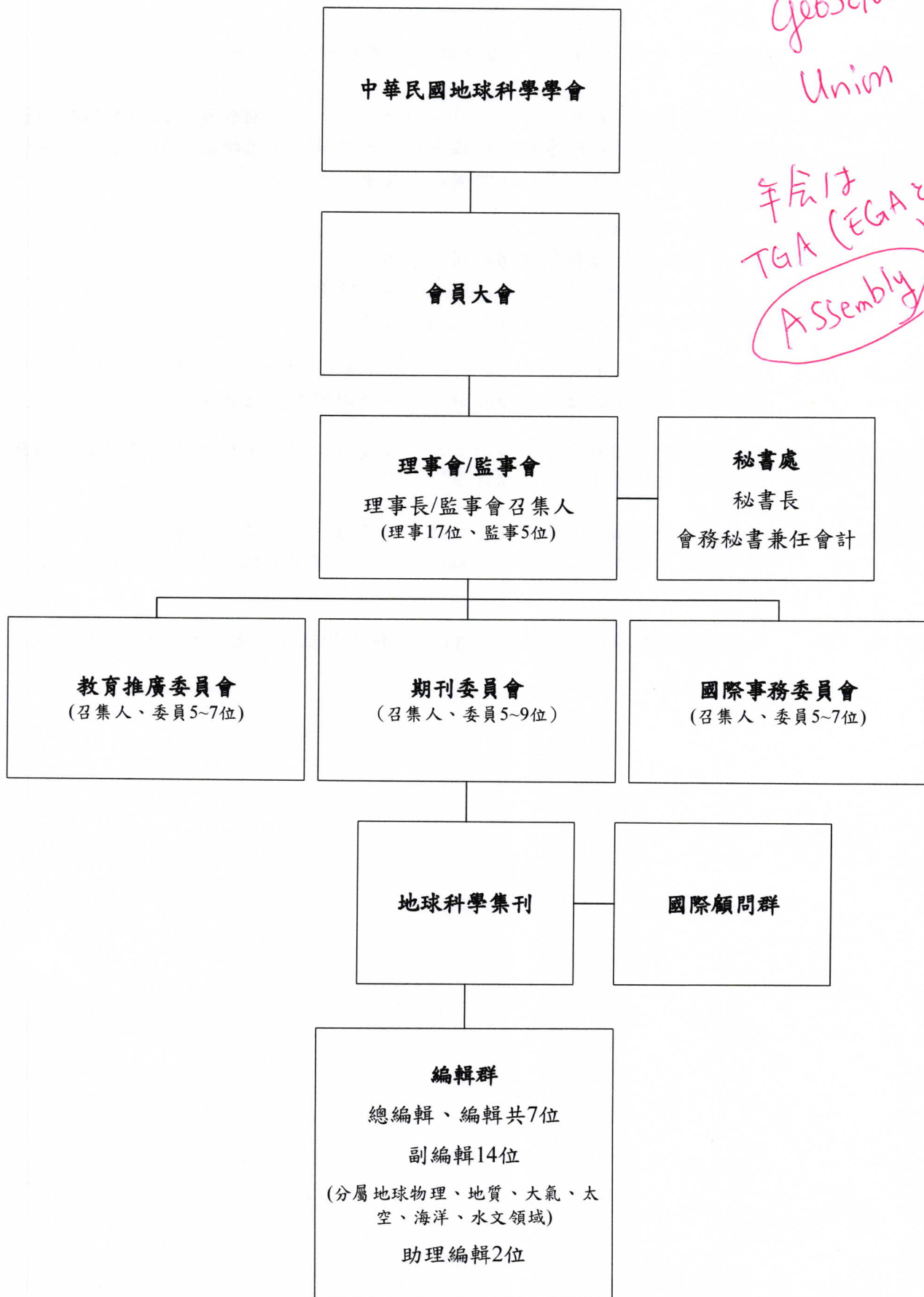
受賞会議			
会議名	和文) 第34回 国際電波科学連合総会		
	英文) XXXIVth URSI General Assembly and Scientific Symposium (URSI GASS 2023)		
主催者	国際電波科学連合 (URSI)		
開催都市	札幌市 (北海道)		
開催期間	2023年8月※会期末定 (8日間)		
参加予定人数 (うち外国人参加)	1,000名 (700名)	参加予定国数	50ヶ国・地域
競合国 (都市)	イタリア (ローマ)、ポーランド (ワルシャワ)、シンガポール		
受賞理由	●主催代表者の小林一哉教授 (中央大学) はMICEアンバサダーとして2度目の大型国際会議の誘致成功となり、産学官連携によるオールジャパン体制とアンバサダープログラム活用による強力なサポートが功を奏した。 ●日本では30年ぶり3度目の開催となり、電波科学における日本の最先端研究成果を世界へ発信する好機と期待できるとともに、アジアにおける関連学術分野の発展、及び、次世代研究者の養成などへの日本の貢献が約束されている。		

中華民國地球科學學會組織圖

190226

Taiwan
GeoScience
Union

年會/TGA (EGA & Taiwan
by EGU)
Assembly



中華民國地球科學學會 國際事務委員會組織簡則

民國 106 年 6 月 30 日第十一屆第二次理監事聯席會議擬定通過

- 第 一 條 「中華民國地球科學學會」（以下簡稱本會）為協助政府與民間團體推動與地球科學有關之國際事務，依據本會章程第廿二條之規定，於理事會下設置「國際事務委員會」（以下簡稱本委員會）。
- 第 二 條 本委員會任務如下：
（一）推動與地球科學有關之國際事務。
（二）加強與國際地球科學團體之交流與聯繫。
（三）促進地球科學研究發展之國際合作。
- 第 三 條 本委員會置委員五至七人，其中一人為召集人，召集人與委員由理事會推薦，經理事會通過後聘任，本委員會委員任期與理事會任期同。
- 第 四 條 本委員會會議須有過半數委員出席方得開會，須有出席委員半數以上之同意方得決議，決議事項應提報理事會核備。
- 第 五 條 本委員會經費由學會編列年度預算統籌支應，必要時得以專案向理事會申請之。召集人除列席理事會外，每年年終須向理事會提出年度工作報告及下一年度計劃。
- 第 六 條 本委員會組織簡則，經理事會通過，報經主管機關核備後實施，修正時亦同。

中華民國地球科學學會 團體會員名冊

序號	單 位	代 表 人
1	中央研究院地球科學研究所	鍾孫霖、詹瑜璋
2	中央研究院環境變遷研究中心	王寶貫、夏復國
3	中華民國太空科學學會	李羅權、朱延祥
4	中華民國地球物理學會	吳逸民、李奕亨
5	中華民國地質學會	吳逸民、劉雅瑄
6	中華民國氣象學會	吳俊傑、林博雄
7	中華民國海洋學會	詹 森、張明輝
8	中華民國測地學會	黃金維、楊 名
9	交通部中央氣象局	陳國昌、程家平
10	海軍大氣海洋局	崔怡楓、孫永大
11	財團法人農業工程研究中心	譚智宏、張順年
12	國立中央大學大氣科學系	林沛練、嚴明鉦
13	國立中央大學太空科學研究所	許志宏、趙吉光
14	國立中央大學地球科學系	郭陳濤、陳建志
15	國立成功大學地球科學系	楊耿明、林建宏
16	國立臺灣大學大氣科學系	吳俊傑、林博雄
17	國立臺灣大學海洋研究所	蘇志杰、楊穎堅
18	國立臺灣師範大學地球科學系	米泓生、吳朝榮
19	國立臺灣海洋大學海洋環境資訊系	梁興杰、黃世任
20	國立臺灣海洋大學地球科學研究所	陳明德、王天楷
21	國家實驗研究院臺灣海洋科技研究中心	尤柏森、林佩瑩
22	逸奇資訊有限公司	王逸民、陳宇文
23	經濟部中央地質調查所	曹恕中、黃智昭

中華民國地球科學學會

個人會員名冊

序號	姓 名	單 位
1	劉兆漢	中央研究院(退休)
2	王錦華	中央研究院 地球科學研究所
3	王國龍	中央研究院 地球科學研究所
4	李建成	中央研究院 地球科學研究所
5	李羅權	中央研究院 地球科學研究所
6	林正洪	中央研究院 地球科學研究所
7	俞震甫	中央研究院 地球科學研究所
8	洪崇勝	中央研究院 地球科學研究所
9	梁文宗	中央研究院 地球科學研究所
10	郭本垣	中央研究院 地球科學研究所
11	黃柏壽	中央研究院 地球科學研究所
12	詹瑜璋	中央研究院 地球科學研究所
13	趙 丰	中央研究院 地球科學研究所
14	趙 里	中央研究院 地球科學研究所
15	鍾孫霖	中央研究院 地球科學研究所
16	余水倍	中央研究院 地球科學研究所(退休)
17	葉義雄	中央研究院 地球科學研究所(退休)
18	王寶貴	中央研究院 環境變遷研究中心
19	許晃雄	中央研究院 環境變遷研究中心
20	陳韡鼎	中央研究院 環境變遷研究中心
21	蔡宜君	中央研究院 環境變遷研究中心
22	劉紹臣	中央研究院 環境變遷研究中心(退休)
23	吳榮章	台灣中油公司 探採事業部(台北)
24	李長之	台灣中油公司 探採研究所
25	沈俊卿	台灣中油公司 探採研究所
26	梅文威	台灣中油公司 探採研究所
27	徐辛欽	交通部中央氣象局
28	馬子玉	交通部中央氣象局
29	張修武	交通部中央氣象局
30	簡國基	交通部中央氣象局
31	李定國	交通部中央氣象局(退休)
32	陳正政	交通部中央氣象局(退休)
33	辛在勤	交通部中央氣象局(退休)
34	紀水上	交通部中央氣象局(退休)
35	郭鎧紋	交通部中央氣象局(退休)
36	王玉懷	國立中山大學 海洋科學系
37	林慧玲	國立中山大學 海洋科學系
38	陳鎮東	國立中山大學 海洋科學系
39	劉祖乾	國立中山大學 海洋科學系
40	鍾玉嘉	國立中山大學 海洋科學系(退休)
41	莫顯嵩	國立中山大學 海洋科學系(退休)
42	許德惇	國立中山大學 海洋科學系(退休)
43	洪佳章	國立中山大學 海洋科學系(退休)

序號	姓 名	單 位
44	王作台	國立中央大學 大氣科學系
45	李永安	國立中央大學 大氣科學系
46	余嘉裕	國立中央大學 大氣科學系
47	林沛練	國立中央大學 大氣科學系
48	林能暉	國立中央大學 大氣科學系
49	陳台琦	國立中央大學 大氣科學系
50	黃清勇	國立中央大學 大氣科學系
51	廖宇慶	國立中央大學 大氣科學系
52	嚴明鉦	國立中央大學 大氣科學系
53	呂世宗	國立中央大學 大氣科學系(退休)
54	洪秀雄	國立中央大學 大氣科學系(退休)
55	周明達	國立中央大學 大氣科學系(退休)
56	林松錦	國立中央大學 大氣科學系(退休)
57	張隆男	國立中央大學 大氣科學系(退休)
58	陳景森	國立中央大學 大氣科學系(退休)
59	曾仁佑	國立中央大學 大氣科學系(退休)
60	葉永烜	國立中央大學 天文研究所
61	張中白	國立中央大學 太空及遙測研究中心
62	劉振榮	國立中央大學 太空及遙測研究中心
63	劉說安	國立中央大學 太空及遙測研究中心
64	蔡龍治	國立中央大學 太空及遙測研究中心
65	朱延祥	國立中央大學 太空科學研究所
66	郭政靈	國立中央大學 太空科學研究所
67	劉正彥	國立中央大學 太空科學研究所
68	蔡偉雄	國立中央大學 太空科學研究所
69	李明旭	國立中央大學 水文與海洋科學研究所
70	許少瑜	國立中央大學 水文與海洋科學研究所
71	黃志誠	國立中央大學 水文與海洋科學研究所
72	王乾盈	國立中央大學 地球科學系
73	李雅淳	國立中央大學 地球科學系
74	馬國鳳	國立中央大學 地球科學系
75	張竝瑜	國立中央大學 地球科學系
76	許樹坤	國立中央大學 地球科學系
77	陳建志	國立中央大學 地球科學系
78	溫國樑	國立中央大學 地球科學系
79	顏宏元	國立中央大學 地球科學系
80	倪簡白	國立中央大學 物理系
81	董家鈞	國立中央大學 應用地質研究所
82	盧志恆	國立中央大學 應用地質研究所
83	李河清	國立中央大學 營建管理研究所
84	張哲明	國立中央大學 環境研究中心(退休)
85	石瑞銓	國立中正大學 地球與環境科學系
86	李元希	國立中正大學 地球與環境科學系

「地球科學集刊」編輯群名冊

職 別	姓 名	任 職
總編輯	許樹坤	國立中央大學地球科學系教授
編輯 (地物)	饒瑞鈞	國立成功大學地球科學系教授
編輯 (地質)	李元希	國立中正大學地球與環境科學系教授
編輯 (大氣)	楊明仁	國立臺灣大學大氣科學系教授
編輯 (太空)	蔡龍治	國立中央大學太空及遙測研究中心教授
編輯 (海洋)	詹 森	國立臺灣大學海洋研究所教授
編輯 (水文)	李明旭	國立中央大學水文與海洋科學研究所教授
副編輯 (地物)	洪淑蕙	國立臺灣大學地質科學系教授
副編輯 (地物)	陳伯飛	國立中央大學地球科學系副教授
副編輯 (地物)	張竝瑜	國立中央大學地球科學系副教授
副編輯 (地質)	楊耿明	國立成功大學地球科學系教授兼系主任
副編輯 (地質)	王國龍	中央研究院地球科學研究所副研究員
副編輯 (大氣)	余嘉裕	國立中央大學大氣科學系教授
副編輯 (大氣)	王重傑	國立臺灣師範大學地球科學系教授
副編輯 (大氣)	林傳堯	中央研究院環境變遷研究中心研究員
副編輯 (太空)	狄米奇	國立中央大學太空科學研究所專案研究員
副編輯 (太空)	陳振雄	中國醫藥大學通識教育中心教授
副編輯 (海洋)	陳仲吉	國立臺灣師範大學生命科學系教授
副編輯 (海洋)	蕭仁傑	國立臺灣大學海洋研究所教授
副編輯 (水文)	童慶斌	國立臺灣大學生物環境系統工程學系教授
副編輯 (水文)	倪春發	國立中央大學應用地質研究所教授

「地球科學集刊」國際顧問群
International Advisory Board (IAB) of TAO

Discipline	Advisor	Affiliation
Geophysics	Francis T. Wu	USC, USA Institute of Earth Sciences, Academia Sinica, Taiwan
Geophysics	Honn Kao	Geological Survey of Canada, Pacific Geoscience Centre, Canada
Geology	Timothy B. Byrne	University of Connecticut, USA
Geology	Jacques Malavielle	Montpellier University, France
Atmosphere	Bin Wang	University of Hawaii, USA
Atmosphere	Robert A. Houze, Jr.	University of Washington, USA Pacific Northwest National Laboratory, USA
Space	Charles L. Rino (retired)	IEEE Fellow and Visiting Scholar at Boston College (since 2013)
Space	Dieter Bilitza	George Mason University, USA NASA, Goddard Space Flight Center, USA
Ocean	Peter H. Santschi	Texas A&M University at Galveston, USA
Ocean	Glen G. Gawarkiewicz	Woods Hole Oceanographic Institution, USA
Hydrology	Shie-Yui Liong	National University of Singapore, Singapore

中華民國地球科學學會
工作人員名冊

職 別	姓 名	現 任 本 職
職 員	陳逸雯	學會會務秘書兼任會計
職 員	吳美芳	集刊助理編輯
職 員	鄭佩芹	集刊助理編輯兼任出納

中華民國地球科學學會 收支決算表

民國106年1月1日至106年12月31日

1元=4A(3.6A)
2190226

科 目			決 算 數	預 算 數	決 算 與 預 算 比 較 數		說 明
款	項	目 名 稱			增 加	減 少	
1		本會經費收入	5,721,371	6,458,000		736,629	
	1	入會費收入	5,400	500	4,900		
	2	常年會費收入	253,500	210,000	43,500		
	1	個人會費	23,500	20,000	3,500		
	2	團體會費	230,000	190,000	40,000		
	3	終身會費收入	7,500	7,500			
	4	補助收入	2,000,000	2,000,000			科技部補助學術推廣業務計畫
	5	訂閱集刊收入	27,477	40,000		12,523	
	6	論文發表收入	1,071,431	720,000	351,431		
	7	研討會收入	0	200,000		200,000	
	8	委託收益	208,936	250,000		41,064	各機關委辦研究計畫等管理費
	9	委託研究計畫收入	1,882,115	2,000,000		117,885	各機關委辦研究型計畫
	10	委託服務收入	205,354	1,000,000		794,646	各機關委辦學術研討會
	11	利息收入	19,894	20,000		106	
	12	其他收入	39,764	10,000	29,764		
2		本會經費支出	5,993,238	6,458,000		464,762	
	1	人事費	1,781,840	1,763,000	18,840		
	1	員工薪資	1,134,833	1,150,000		15,167	
	2	獎金津貼	290,004	300,000		9,996	
	3	臨時僱工	154,850	100,000	54,850		
	4	健勞保費	138,973	140,000		1,027	
	5	勞工退休金	63,180	70,000		6,820	
	6	廣告費	0	3,000		3,000	
	2	辦公費	336,702	215,000	121,702		
	1	租金支出	300	300			
	2	文具印刷	38,575	50,000		11,425	
	3	郵電費	155,809	100,000	55,809		
	4	交通費	2,586	2,000	586		
	5	手續費	4,145	5,000		855	
	6	修繕維護費	58,661	20,000	38,661		
	7	勞務費	35,000	35,000			會計師財務簽證及諮詢費
	8	其他辦公費	41,626	2,700	38,926		
	3	業務費	3,444,035	4,370,000		925,965	
	1	會議費	79,292	20,000	59,292		會員大會、理監事會議等
	2	業務推展費	680,322	650,000	30,322		線上投稿系統、會議參展差旅費等
	3	期刊編印費	561,217	350,000	211,217		
	4	編輯費	0	0			
	5	潤稿費	18,467	200,000		181,533	
	6	研討會支出	17,268	150,000		132,732	
	7	委託研究計畫支出	1,882,115	2,000,000		117,885	各機關委辦研究型計畫
	8	委託服務支出	205,354	1,000,000		794,646	各機關委辦學術研討會
	4	購置設備費	259,348	20,000	239,348		辦公室裝潢工程及辦公設備
	5	雜費支出	16,004	40,000		23,996	
	6	其他損失	153,818	0	153,818		美元評價匯兌損失等
	7	提撥基金	1,491	50,000		48,509	
3		本期餘絀	(271,867)				
4		上期結存	8,415,121				

中華民國地球科學學會

資產負債表

民國 106 年 12 月 31 日

資產		負債、基金及累積餘絀	
科目名稱	金額	科目名稱	金額
流動資產		流動負債	
現金	15,515	應付帳款	532,114
銀行存款	6,500,945	應付費用	416,792
應收帳款	2,819,191	預收款	532,570
預付費用	300	代收款	6,778
暫付款	295,557	合計	1,488,254
合計	9,631,508	基金	
基金		資產基金	712,874
會務基金	1,858,480	會務基金準備	1,858,480
		合計	2,571,354
固定資產		餘絀	
辦公室設備	712,874	累積餘絀	8,415,121
		本期餘絀	(271,867)
		合計	8,143,254
總計	12,202,862	總計	12,202,862

4,390 萬 A

中華民國地球科學學會 現金出納表

民國 106 年 1 月 1 日至 106 年 12 月 31 日

收 入 部 份		支 出 部 份	
科目名稱	金 額	科目名稱	金 額
上 期 結 存	8,415,121	本 期 支 出	5,993,238
本 期 收 入	5,721,371	本 期 結 存	8,143,254
合 計	14,136,492	合 計	14,136,492

2050 萬元

中華民國地球科學學會 基金收支表

民國 106 年 1 月 1 日至 106 年 12 月 31 日

收 入 部 份		支 出 部 份	
科目名稱	金 額	科目名稱	金 額
準 備 基 金	1,858,480	準 備 基 金	0
歷 年 累 存	1,856,989		
本年度利息收入	1,491		
本 年 度 提 撥	0	本 期 結 餘	1,858,480

670 萬元

1 元 = 4A (36A)
2190226

中華民國地球科學學會

財產目錄

民國 106 年 12 月 31 日

財產編號	名稱	購置日期	單位	數量	金額	說明
1.	搬運用伸縮車	93.12.13	台	1	1,100	
2.	IBM eSever x206 伺服器	93.12.31	台	1	69,900	
3.	會計軟體-正航 1 號	95.03.31	套	1	3,360	
4.	隨身碟-創見 1GB	95.08.31	台	1	1,100	
5.	禾聯 HI-63F5 一對一分離式冷氣(7.1KW)	96.10.31	台	1	30,800	節能減碳辦公室
6.	日立一對一變頻分離式冷氣	98.02.25	台	1	84,525	GCRC G203 室
7.	優美屏風桌板 W150D70	98.03.23	片	3	4,158	
8.	優美屏風桌板吊袖	98.03.23	個	1	2,468	
9.	優美屏風桌板 A-BI 圓柱腳	98.03.23	支	1	1,168	
10.	優美雙開門下置式鋼製公文櫃	98.03.23	個	2	6,904	
11.	優美抽屜三層式鋼製公文櫃	98.03.23	個	2	11,370	
12.	優美玻璃加框拉門上置式鋼製公文櫃	98.03.23	個	4	12,996	
13.	優美抽屜二層式鋼製公文櫃	98.03.23	個	2	8,376	
14.	優美開放二層式鋼製公文櫃	98.03.23	個	1	2,914	
15.	優美木紋色公文櫃面板	98.03.23	片	1	1,850	
16.	優美公文櫃掛軌	98.03.23	個	3	2,835	
17.	優美公文櫃水平調整底座	98.03.23	個	7	2,842	
18.	優美活動櫃	98.03.23	個	2	5,584	
19.	優美活動櫥櫃	98.03.23	座	3	52,800	
20.	優美辦公椅 MSL-01TGF	98.03.23	張	1	6,426	
21.	優美網背辦公椅	98.03.23	張	4	9,340	
22.	優美洽談桌	98.03.23	張	1	6,220	
23.	優美巧意椅 UPS-04P 型	98.03.23	張	2	3,172	
24.	優美防焰直立簾	98.03.23	才	108	3,780	GCRC G203 室
25.	21.5 吋 iMac 電腦	100.09.20	台	1	48,900	
26.	電腦主機 ASUS i5-33330 (TAO)	102.06.18	台	1	20,888	
27.	筆記型電腦 ASUS #UX303UB ZenBook 13.3 吋	105.03.03	台	1	32,000	
28.	HP LaserJet Pro #M426fdn 多功能事務機	105.12.29	台	1	15,750	
29.	微星 Intel #B150M DDR4 組裝電腦	106.09.19	台	1	11,788	
30.	OA 辦公設備(薄屏風/側桌板/書架/集線槽)	106.09.28	組	3	29,010	
31.	日立一對一變頻分離式冷氣 RAS/RAC-40NK	106.09.28	台	1	53,550	
32.	辦公室裝潢工程	106.09.28	式	1	165,000	
	合計				712,874	

議事要録

会議 JpGU と TGU (Taiwan Geoscience Union) の協力について

日時: 2019 年 2 月 26 日 10 時 30 分より 13 時

場所: 国立台湾大学

出席者:

川幡穂高 (JpGU, 会長)

木村 学 (JpGU, 元会長, グローバル委員会)

高橋幸弘 (JpGU, グローバル委員会)

Jong-Dao Ben JOU (国立台湾大学, TGU プレジデント)

Yuei-An Liou (国立中央大学)

- 1) 日本地球惑星科学連合と Taiwan Geoscience Union の情報を交換するとともに、両者の将来の協力について概要を議論した。基本的に、両者ともに科学者主導の下で地球惑星科学の振興のために組織が運営されているという点でとても類似しているとの認識に至った。
- 2) 2019 年 5 月 14-17 日まで 3 年に一度の Taiwan Geoscience Union Meeting が開催される、次回は 2022 年の開催に開催の予定である。通常、参加者は 2,000 名程度とのことであった。
- 3) 2019 年 17 日に Taiwan Geoscience Union Meeting で Kick-off Meeting を行うことが提案された、JpGU 側 3 名程度、台湾側 3 名程度で、小規模のシンポジウムを学会期間中に実施する。
- 4) 分野は広くカバーされた方がよいとの意見があったので、基本的に「space and planetary sciences, atmospheric and hydrographic sciences, human geosciences, solid Earth sciences, and biogeosciences」を反映して後援者を選ぶ方向で調整することとなった。
- 5) 2020 年の jpGU-AGU Joint Meeting で JpGU-TGU Joint session の提案、2020 年あたりに小さなシンポジウムなどの開催が実現可能でよいのではないかとこの意見があった。
- 6) 2022 年(次回)、TGU meeting でより本格的に協力体制を作る程度のスケジュールが現実的でないかとの見解に達した。

上記以外の面会者

Jing-Yang JOU (国立中央大学学長)

Yuei-An Liou (国立中央大学, JpGU, AGU にほぼ出席している重要コンタクトパーソン)

Hwa CHIEN (国立中央大学)

Wing Ip (国立中央大学, AOGS 創始メンバー)

国立台湾大学にて、左から(敬称略)高橋幸弘, 木村 学, Jong-Dao Ben JOU, 川幡穂高, Yuei-An Liou



国立中央大学にて、左から(敬称略)Yuei-An Liou, 木村 学, Jing-Yang JOU, 川幡穂高, 高橋幸弘



○○○セクション

セクションプレジデント ○○先生

幹事 ○○先生

(c.c. セクションボードの皆さま)

昨年は、ハイライト論文の選出に多大なご協力を賜り、ありがとうございました。本年度も引き続き、ハイライト論文の選出および報道・出版関係者を対象としたハイライト論文冊子を作成・配布したく考えています。選出方法は以下のように、昨年度から変更はありません。

- (1) ハイライト論文は大会のプレスリリースの一環と位置づける。
- (2) 基本的に立候補制とし、連合大会で発表することを積極的にプレスリリースしたい方にハイライト論文選考希望の申し込みをしてもらう。
- (3) 申し込みのあった発表に対し、まず関連セクションのサイエンスボードで順位付けしていただく。
- (4) その結果に基づき広報普及委員会で選出して、大会広報と一緒にリリースする（文科省の記者クラブなどに投げ込みをする）。

セクションボードの先生方にはご負担をかけてしまいますが、「学術的意義及び社会的意義が認められる研究成果を広く社会に発信する価値のある論文かどうか」を基準として、順位付けをお願いいたしたく存じます。ハイライト論文選考希望の応募は、4月5日(金)まで行い、それを事務局で集計後、応募一覧を4月8日(月)にセクションボードへ送付する予定です。順位付けの結果は、4月19日(金) 12:00までにご回答いただけますようよろしくお願いいたします。(なお、応募一覧には、基本的な発表情報に加えて、応募者が記入した「学術的な意義・インパクト」「社会的な意義・インパクト」なども含まれる予定です。)

年度末・新年度のお忙しいところ恐縮ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

=====

今後の予定 [ご参考]

4月 5日(金)	応募締切(締切までに何度か臨時メールニュース配信)
4月 8日(月)	セクションボードに応募一覧を送付
4月 8日(月)	セクションボードでの審査開始
4月19日(金)	順位付け回答締切
4月22日(月)	セクションボードからの審査結果取りまとめ(順位付け)

4月22日(月)	順位付けに基づいて広報普及委員会での審査開始
4月26日(金)	審査結果取りまとめ(確定)
5月 7日(月)	公開用データ作成開始
5月13日(月)	プレスリリース (ウェブ公開、印刷)

=====

ハイライト論文募集通知(MLなどで流す予定)[ご参考]

日本地球惑星科学連合広報普及委員会では、本年も昨年同様に、連合大会へ取材に来る報道・出版関係者(過去毎年30名超)を対象に、ハイライト論文冊子「日本地球惑星科学連合大会2019ハイライト」を作成・配布いたします。ハイライト論文冊子は、多数の発表論文から特に一般・報道向けに、顕著な研究成果や社会への波及効果があるものなどを、各セッションから5件程度取り上げたものとし、大会会場・ロビー等で閲覧用に展示するほか、WEBにPDF版を置く予定です。

[今年の冊子PDF版]

http://www.jpgu.org/meeting_2018/downloads/highlight.pdf

ハイライト論文の選定手順は、(1)連合大会で発表することを積極的にプレスリリースしたい方に立候補していただき、(2)関連セッションのセッションボードで順位付けして、(3)その結果に基づき広報普及委員会で選定する、こととしています。選定基準は、「学術的な意義・インパクト、および社会的な意義・インパクトが特に大きなもの」「広く一般に報道すべきプレスリリース的価値のあるもの」です。記者会見のアレンジはいたしません。個別の取材申し込みが期待できます。口頭・ポスター発表共に応募を受け付けます。プレスリリースを希望する方は、積極的に応募してください。

なお、すでに論文が出版された後でも、学会発表は報道の機会となり得ますので、報道に値する学術的・社会的意義のある研究成果であるとお考えであれば、応募願います。逆に論文がまだ出版されていない研究成果であっても、社会的意義や速報性が重視される内容であれば、ご自身の判断でご応募ください。

プレスリリースを希望される方は、以下のURLの申請フォームに必要事項を記入してご応募ください。その際、報道関係者の方々にも発表内容の「学術的意義及び社会的意義」がよく分かるように、それらのポイントを簡潔にご説明願います。

立候補を行うには、以下に示した必要事項を投稿サイト(<http://・・・>)にてご入力ください。

○発表日時

- 発表場所
- 発表セッション
- 講演タイトル
- 著者
- 連絡先メールアドレス
- 発表概要
- 学術的な意義・インパクト
- 社会的な意義・インパクト

【締切：2019年4月5日(金) 17:00】

地球惑星科学分野の最新の研究成果を社会に発信するため、ぜひ積極的なプレスリリース
をご検討下さい。

=====

◎寄附 TF の決定事項

2 / 2 1 寄附 TF を開催（川幡、中村、古村、西、浜野、杉村、渡辺）

- ① JpGU の公益事業の促進に向け寄附を積極的に受け入れる方針を再確認
- ② 寄附金取り扱い規則を定め、寄附金の定義（一般寄附、特定寄附、特別寄附）と受け入れ手順を明確化する
- ③ JpGU が使途を特定して一定期間募金活動を行う特定寄附を設け、募金目論書見書に基づき進める
- ④ 使途を定めた寄附金（特別寄附）の受け入れは、寄附金申し込み書に基づき理事会で可否を判断する
- ⑤ 1 月理事会以降の使途を定めた寄附金受け入れについては、本方針（制定予定の規則）に準じて取り扱うものとする
- ⑥ 税額控除認定に向け、引き続き努力を続ける

公益社団法人日本地球惑星科学連合寄附金等取扱規則(案)

(目 的)

第1条 この規則は、公益財団法人日本地球惑星科学連合（以下「この法人」という）が定款第5条で定める公益目的事業の達成に向け受領する寄附金に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義等)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- ① 一般寄附金 この法人の会員又はこの法人の会員を含む広く一般社会に常時募金活動を行うことにより受領する寄附金
- ② 特定寄附金 この法人の会員又はこの法人の会員を含む広く一般社会に、この法人が使途を特定して一定期間募金活動を行うことにより受領する寄附金
- ③ 特別寄附金 前各号のほか、個人又は団体から受領する寄附金であり、使途が指定されているもの

2 この規程における寄附金には、金銭のほか金銭以外の財産権を含むものとする。

(一般寄附金の募集)

第3条 この法人は常時一般寄附金を募ることができる。

2 一般寄附金は、寄附金総額の 50%以上を定款第5条の公益目的事業に使用することとして募集しなければならない。

(特定寄附金の募集)

第4条 特定寄附金を募集するときは、募集総額、募集期間、募集対象、募集理由、次項に規定する資金使途及びその他必要な事項を説明した書面(以下「募金目論見書」という)を理事会に提出し、承認を求めなければならない。

2 特定寄附金は適正な募集経費を控除した残額の総額を、定款第5条の公益目的事業の全部又は一部に使用することとして資金使途を定めなければならない。この場合、適正な募集経費は募集総額の 30%以下でなければならない。

(募金目論見書の交付等)

第5条 特定寄附金を募集するときは、募金目論見書を募金の対象者に事前に交付しなければならない。

2 前項にかかわらず、ホームページにおいて募金目論見書を公開し、これに賛同して寄

附した者へは事後に交付することができる。

(受領書等の送付)

第6条 一般寄附金又は特定寄附金を受領したときは、遅滞なく礼状、受領書及び第4条第1項による募金目論見書を寄附者に送付するものとする。

2 前項の受領書には、この法人の公益目的事業に関連する寄附金である旨、寄附金額及びその受領年月日を記載するものとする。

(募金に係る結果の報告)

第7条 この法人は、特定寄附金の募集期間終了後速やかに寄附金総額、使途予定その他必要な事項を記載する報告書を寄附者に交付するものとする。ただし、ホームページ上の公開に代えることができる。

2 この法人は、特定寄附金の支出が完了したときは、当該寄附金の収支に係る収支決算書及び当該支出による効果などを記載した報告書を寄附者に交付するものとする。ただし、ホームページ上の公開に代えることができる。

(特別寄附金)

第8条 この法人は個人又は団体より特別寄附金を受領することができる。

2 寄附者は、寄附申込書により、寄附金額、寄付金の使途及び寄付金の管理運用方法の条件を付して、この法人の会長に申し出るものとする。

3 この法人の会長は特別寄付金の受け入れに際して、その受領の可否について理事会の承認を求めなければならない。

4 寄附金が下記各号に該当する場合若しくはそのおそれがある場合には、当該寄附金を辞退しなければならない。

① 国、地方公共団体、公益法人及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に規定する者以外の個人又は団体がその寄附により、特別の利益を受ける場合

② 寄附者がその寄附をしたことにより、税の不当な軽減をきたす結果となる場合

③ 寄附金の受け入れに起因して、この法人が著しく資金負担が生ずる場合

④ 前3号に掲げる場合のほか、この法人の業務の遂行上支障があると認められるもの及びこの法人が受け入れるには社会通念上不相当と認められる場合

(情報公開)

第9条 この法人が受領する寄附金については、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第22条第5項各号に定める事項について、事務所への備置き及び閲覧等の措置を講じるものとする。

(個人情報保護)

第10条 寄附者に関する個人情報については、別に定める個人情報保護規程に基づき、細心の注意を払って情報管理に務めるものとする。

(改 廃)

第 11 条 この規程の改廃は、理事会の議決を経て行う。

附 則

- 1 この規程の施行に関し、必要な事項は別に定める。
- 2 この規程は、平成 21 年6月9日から施行する。(平成 21 年6月9日理事会議決)

年 月 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合

会長 ○○○○ 殿

寄附者（法人にあっては法人名及び役職・氏名）

住 所 〒

氏 名

印

寄 附 金 申 込 書（案）

公益社団法人日本地球惑星科学連合寄附金取り扱い規則の内容を了承し、下記のとおり寄附の申込みを行います。

記

1 寄附金の種類 一 般 寄 附 金 ・ 特 定 寄 附 金 ・ 特 別 寄 附 金

（いずれかの種類に○をご記入ください。）

2 寄 附 金 額 _____ 円

3 寄附の理由・使途の条件等（特別寄附金の場合は、希望される寄附金の使途をご記入ください。）

.....
.....

4 そ の 他
（金銭以外での寄附の場合は、その内容についてご記入ください。）

.....
.....

所得控除と税額控除の控除額の違いについて

2019年3月

公益社団法人日本地球惑星科学連合

公益社団法人日本地球惑星科学連合では、寄付者の所得税等の控除として「公益社団法人等寄附金特別控除」(税額控除)を受けられるように寄附実績に係るPST(パブリック・サポート・テスト)をクリアーするキャンペーン(具体的には3000円以上の寄附者が、平均して年に100人以上)をしておりますが、以下に、確定申告において、寄付金控除(所得控除)の適用を受けるべきか、あるいは寄付金特別控除(税額控除)の適用を受けるべきかの参考となる計算を示します。

個人が支出した寄附金控除の控除額の算出方式の違い

1. 寄附金控除(所得控除)、

(寄附金合計額^{*1} - 2,000円)を所得金額から控除

(^{*1}但し、寄付金の合計額は所得金額の40%が上限です)

2. 寄附金特別控除(税額控除)

(寄附金合計額^{*1} - 2,000円) × 40%を所得税額から控除^{*2}

(^{*2}但し、所得税額の25%が上限です)

つまり、この2つは所得金額から控除するか、所得税等から控除するか、どの段階で控除するのかの違いということになります。なお上記の算式で、所得金額、課税所得、所得税額の定義は以下のとおりです。また、所得税は以下の早見表で計算出来ます。

所得金額 = 収入 - 給与所得控除(必要経費)

課税所得 = 所得金額 - 所得控除(基礎控除・配偶者控除、社会保険料控除等、寄付金控除)

所得税額 = 課税所得 × 税率[※] (ただし超過累進課税である事に注意)

所得税の税額表(求める税額 = A × B - C)

課税所得金額 (A)

税率 (B)

控除額 (C)

1,000円～1,949,000円

5.0%

0円

1,950,000 円～3,299,000 円	10.0%	97,500 円
3,300,000 円～6,949,000 円	20.0%	427,500 円
6,950,000 円～8,999,000 円	23.0%	636,000 円
9,000,000 円～17,999,000 円	33.0%	1,536,000 円
18,000,000 円～39,999,000 円	40.0%	2,796,000 円
40,000,000 円以上	45.0%	4,796,000 円

寄附による控除の計算例

具体的な計算表は付録を見て頂くとして三つのケースを示します。

前提

1. 課税所得金額とは給与所得者なら給与所得控除と所得控除、寄附金所得控除後の金額を言います。
2. 給与所得者であり、所得控除は社会保険料と基礎控除のみ控除すると仮定します。
3. 復興特別所得税（基準所得税の 2. 1%）は控除していません。
4. 住民税から控除できる寄付金控除については、お住まいの都府県市等の条例により確認する必要がありますが、本稿では一律 10%としています。

- ① 収入 500 万円 (税率 10%) の方が 10 万円の寄附を行った場合
 所得控除税額計 19,600 円 < 寄付金特別控除減税額計 41,925 円

- ③ 収入3、000万円（税率40%）
- 所得控除税額計 49,000円 = 寄付金特別控除減税額計 49,000円

上記の例から判るように一般的に税率がそれほど高くない場合は、税額控除の方が減税額＝還付される金額は多くなる傾向にあります。所得税率が高い人の場合は、税額控除よりも所得控除のほうが税金の減税額＝還付される金額が大きくなる場合がありますが、税率が40%まで上がると、それぞれの控除の効果が同じになってきます。このように、収入が一定額を超えない限り、控除の効果は税額控除の方が大きいことがわかります。

但し、気をつけて頂きたい2点があります。

- ① 実際の税額は他の様々な控除を経て算出されるという点、
- ② 2種類の限度額が設定されている事

寄付金額が高額であったり、算出された税額が小さかったりした場合には、寄付金による税額控除額が所得税の 25%の限度額を超過する可能性が高くなり税額控除の効果を最大限利用出来ないことになるという点も留意すべきでしょう。

以上

付録

				減税額			減税額		減税額			減税額
	収入	¥5,000,000	¥5,000,000		¥10,000,000		¥10,000,000		¥30,000,000	¥30,000,000		減税額
	寄付金額		¥0	¥100,000		¥0	¥100,000		¥0	¥100,000		
寄付金控除 (所得控除)												
	給与所得控除 (必要経費)		¥-1,540,000	¥-1,540,000		¥-2,200,000	¥-2,200,000		¥-2,200,000	¥-2,200,000		
	所得控除 (社会保険料 + 基礎控除のみ)		¥-1,200,000	¥-1,200,000		¥-1,600,000	¥-1,600,000		¥-1,600,000	¥-1,600,000		
	寄付金所得控除		¥0	¥-98,000		¥0	¥-98,000		¥0	¥-98,000		
	課税所得金額	¥2,260,000	¥2,162,000			¥6,200,000	¥6,102,000		¥26,200,000	¥26,102,000		
	所得税率		10%	10%			20%		40%	40%		
	所得税	¥128,500	¥118,700	¥-9,800		¥812,500	¥792,500	¥-19,600	¥7,684,000	¥7,644,800	¥-39,200	
	住民税	¥226,000	¥216,200	¥-9,800		¥620,000	¥610,200	¥-9,800	¥2,620,000	¥2,610,200	¥-9,800	
	所得控除税額計	¥354,500	¥334,900	¥-19,600		¥1,432,500	¥1,403,100	¥-29,400	¥10,304,000	¥10,255,000	¥-49,000	
寄付金特別控除 (税額控除)												
	所得税	¥128,500				¥812,500			¥7,684,000			
	寄付金税額控除		¥-39,200				¥-39,200			¥-39,200		
	所得税の25%上限規定		¥-32,125				¥-203,125			¥-1,921,000		
	上記二つの小さい額		¥-32,125				¥-39,200			¥-39,200		
	住民税から寄付金の10%控除		¥-9,800				¥-9,800			¥-9,800		
	寄付金特別控除税額計			¥-41,925			¥-49,000					¥-49,000

共催・協賛・後援等一覧

申請日	承認日	種別	経費負担	申請対象	行事名称	主催者名	開催期間	開催場所
10月19日	10月26日	協賛	あり	大気水圏科学セクション	陸水物理研究会2018年度石垣大会	陸水物理研究会	2018年 11月 16日(金)～ 2018年 11月 18日(日)	大濱信泉記念館 多目的ホール(沖縄県石垣市)
10月29日	11月7日	後援	無し	連合	地学オリンピック日本委員会による地球科学講演会「地球をぶらり」	NPO法人地学オリンピック日本委員会	2018年11月24日(土)	城西大学 東京紀尾井町キャンパス3号棟
11月6日	11月16日	協賛	無し	連合	日本化学連合シンポジウム 「大学の未来をどう描くか: 国立大学法人経営統合等」	日本化学連合	2018年12月26日(水)	化学会館7階ホール
11月14日	11月21日	協賛	無し	連合	2018年度量子ビームサイエンスフェスタ	KEK物質構造科学研究所、J-PARCセンター	2019年3月12日(火)～ 2019年3月13日(水)	つくば国際会議場(エポカルつくば)
11月28日	12月7日	後援	無し	連合	日本学術会議公開シンポジウム 「繰り返される災害—少子高齢化の進む地域で生き抜くということ—」	地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会 土木工学・建築学委員会IRDR分科会	2019年4月5日(金曜日) 13:00—17:00	日本学術会議講堂
12月20日	1月15日	協賛	無し	連合	第24回計算工学講演会	一般社団法人日本計算工学会	2019年5月29日(水)～31日(金)	ソニックシティー
2月7日	2月19日	後援	無し	連合	科学教育研究協議会 第66回全国研究大会・福岡大会	科学教育研究協議会	2019年8月9日(金)～ 2019年8月11日(日)	西南学院大学
2月12日	2月22日	後援	無し	連合	「一家に1枚ポスター」日本列島6億年(仮)	一般社団法人日本地質学会	発行予定日: 2019年4月	配布予定: 5月の連合大会場、その他全国の教育施設など

声明

2月22日	声明	無し	連合	小惑星探査機「はやぶさ2」の小惑星離着陸成功に関する日本地球惑星科学連合の声明	
-------	----	----	----	---	--

小惑星探査機「はやぶさ2」の小惑星離着陸成功に関する日本地球惑星科学連合の声明

2019年2月22日

本日、日本の小惑星探査機「はやぶさ2」は、小惑星 **Ryugu** (リュウグウ) へのタッチダウンに成功しました。大小さまざまな岩塊からなる表面のわずか6メートル程度の平坦な領域へのピンポイントタッチダウンに成功したことは、精密な誘導航法技術によるものであり、まさに画期的といえます。それに加えて、リュウグウの岩石試料を採取するための弾丸発射を含む一連の運用が実施されたことも確認されました。日本の地球惑星科学コミュニティとして心よりの祝意を表明いたします。この試料は地球に持ち帰って詳細な分析が行われる計画ですが、太陽系や地球の起源及び進化に加えて、地球の海や生命の原材料物質の謎を解き明かす貴重な手がかりが得られることになり、大変意義深いものです。このような、極めて高度な技術を伴うミッションに果敢に挑戦する宇宙航空研究開発機構と宇宙惑星科学コミュニティの関係者に心から敬意を表します。日本地球惑星科学連合は、本計画の成功を強く期待いたします。

公益社団法人 日本地球惑星科学連合

会長 川幡穂高

Japan Geoscience Union announcement concerning the successful touchdown of the Asteroid Explorer Hayabusa 2 on an asteroid

22 Feb 2019

Today the Japanese asteroid explorer Hayabusa 2 successfully touched down on the asteroid Ryugu. The pinpoint touchdown on a smooth patch of little more than 6 m² on the rubbly surface consisting of large and small clumps of rock is both a success story for precision guidance and navigation and an epoch-making event for planetary exploration. In addition to the touchdown, mission control has confirmed the completion of a series of activities including the firing of a projectile designed to retrieve rock samples from Ryugu. In our role of representing the Japanese Earth and planetary science community, we at the Japan Geoscience Union would like to send the team our heartfelt congratulations. After the rock samples are brought back to the earth, they will be carefully analysed and the results will be invaluable to help unlock the secrets about the origin and evolution of the solar system and the earth and the origin of the building blocks of life. We salute the boldness of JAXA and the Japanese planetary science community that took on the challenge of this type of mission that requires an exceptionally high level of technical expertise. All of us at the Japan Geoscience Union are greatly looking forward to the successful completion of this project.

President of the Japan Geoscience Union

Hodaka Kawahata

JpGU 2019 プログラム関連日程表

項目	対象者/担当者	期間
セッション提案	セッション開催希望者・学協会プログラム委員	9/3(月)～10/12(金)17:00
学協会セッション提出	学協会プログラム委員	10/15(月)～10/22(月)17:00
セッション採択会議	プログラム編成会議メンバー	10/23(火)
セクション帯案作成	セクションプログラム委員	10/25(木)～11/8(木)
プログラム編成会議	プログラム編成会議メンバー	11/13(火)
開催セッション一般公開	プログラム委員会	11/21(水)
コマ割・仮コマ数公開(コンビーナ)	プログラム委員会	11/21(水)
コマ割公開(一般)	プログラム委員会	12/3(月)
投稿	発表希望者	1/8(火)～2/19(火)17:00 ※早期締切2/4(月)23:59
(参加登録)	大会参加者	1/8(火)～受付開始 ※早期締切5/8(水)
セッション編成(採択・移動)	コンビーナ・プログラム委員会	2/20(水)～2/25(月)17:00
セッション編成(コマ数確定)	プログラム委員会	2/27(水)
セッション編成(発表順作成)	コンビーナ	2/28(木)～3/7(木)17:00
採択通知	プログラム委員会	3/13(水)
プログラム公開	プログラム委員会	3/14(木)
予稿PDF公開	プログラム委員会	5/17(金)

身分		投稿数				投稿者数			
		2019			2018	2019			2018
		投稿数	不採択	合計		投稿者数	不採択者数	合計	
正会員	一般	2774	6	2768	2901	2175	2	2173	2203
	教員	15	0	15	19	14	0	14	18
	シニア	66	1	65	65	54	0	54	57
	院生	984	1	983	1067	948	1	947	1031
	学部生	198	0	198	63	194	0	194	60
	高校生以下	0	0	0	0	0	0	0	0
大会 会員	一般	322	4	318	295	304	2	302	267
	教員	11	0	11	5	11	0	11	5
	シニア	0	0	0	0	0	0	0	0
	院生	114	2	112	103	112	2	110	102
	学部生	17	0	17	6	17	0	17	6
	高校生以下	1	0	1	0	1	0	1	0
AGU	不明	0	0	0	2	0	0	0	2
	一般	389	0	389	336	326	0	326	272
	教員	0	0	0	3	0	0	0	2
	シニア	7	0	7	4	6	0	6	3
	院生	67	0	67	51	67	0	67	50
	学部生	0	0	0	3	0	0	0	3
合計		4965	14	4951	4923	4229	7	4222	4081

	投稿時					
	JpGU ID	non member	AGU ID	不採択	Total	2018
	3385	445	399	7	4222	4081
Australia	1	0	3		4	9
Austria	1	1	1		3	8
Bangladesh	1	0	0		1	2
Belgium	0	0	1		1	3
Berarus	1	0	0		1	
Brazil	0	0	2		2	2
Canada	3	0	4		7	4
Chile	1	1	0		2	0
China	48	65	35	1	147	72
Colombia	1	0	1		2	0
Costa Rica	1	0	0		1	1
Czech Republic	0	2	0		2	0
Cyprus					0	0
Denmark					0	0
Ecuador					0	1
Egypt					0	0
Ethiopia					0	0
Finland	1	0	0		1	0
France	7	9	11		27	20
Germany	5	20	9		34	22
Hong Kong	3	2	0		5	3
Hungary					0	0
India	12	19	10		41	38
Indonesia	3	3	0		6	7
Israel					0	0
Italy	3	5	1		9	5
Japan	3145	255	141	5	3536	3533
Korea	15	13	6		34	33
Macau	2	0	0		2	
Malaysia	2	0	1		3	3
Mexico	1	0	1		2	0
Mongolia	2	0	1		3	3
Morocco	0	0	1		1	1
Nepal					0	0
Netherlands	1	1	0		2	1
New Zealand	0	0	6		6	8
Nigeria					0	0
north korea					0	1
Norway	0	0	1		1	13
Pakistan	1	1	0		2	2
Peru					0	
Philippines	6	0	0		6	8
Poland	0	0	1		1	0
Russia	14	3	2		19	22
Saudi Arabia					0	2
Singapore	0	0	2		2	6
South Africa	0	0	1		1	1
Spain	2	1	1		4	3
Sri Lanka	1	1	0		2	3
Sweden					0	3
Switzerland	3	2	2		7	6
Taiwan	73	25	36	1	133	93
Thailand					0	1
Turkey	2	1	2		5	1
UK	1	5	7		13	13
Ukraine					0	1
UAE					0	1
USA	21	9	109		139	119
Vietnam	1	0	0		1	1
Zambia	0	1	0		1	
不明						2

※不採択は、投稿全てが不採択の人の数

大会収入/支出 見積もり 2020 - 2022

収入	支出		大会支出合計	会場費合計	会場賃借料	設備機材賃借料	印刷製本費	アルバイト料	会議費	旅費交通費	委託費	事務局給与
――	――	2015	70,888,284	30,379,813	19,995,638	10,384,175	3,257,638	3,509,500	2,970,816	6,884,132	4,633,200	19,253,185
+3500万	+3000万	2016	100,063,225	39,714,802	23,347,648	16,367,154	3,600,000	3,800,000	4,114,889	14,797,832	4,360,000	29,675,702
+2800万	+5700万	2017	156,929,127	65,699,391	41,198,888	24,500,503	4,661,339	4,056,090	7,834,177	18,858,042	24,393,586	31,426,502
-2000万	-3300万	2018	123,522,996	54,087,909	32,313,802	21,774,107	3,812,614	3,296,350	6,116,493	14,946,249	8,161,381	33,102,000
+300万	+1000万	2019	133,273,698	59,169,848	36,390,380	22,779,468	2,852,620	5,830,890	4,712,340	15,386,000	11,322,000	34,000,000
+2200万	+1100万	2020	144,500,000	60,000,000	37,000,000	23,000,000	1,500,000	6,000,000	5,000,000	18,000,000	20,000,000	34,000,000
-800万	-200万	2021	142,500,000	76,000,000	56,000,000	20,000,000	1,500,000	6,000,000	5,000,000	15,000,000	5,000,000	34,000,000
+0	-1600万	2022	126,500,000	60,000,000	37,000,000	23,000,000	1,500,000	6,000,000	5,000,000	15,000,000	5,000,000	34,000,000

収入ー支出		大会収入合計	登録参加者	発表論文数	大会参加料	投稿料	団体展示料	会費
41,241,716	2015	112,130,000	5,271	4,037	65,316,000	15,354,000	18,300,000	13,160,000
47,801,075	2016	147,864,300	5,487	4,515	96,754,040	17,119,480	22,571,780	11,419,000
19,307,333	2017	176,236,460	6,645	5,562	117,534,780	21,446,680	24,948,000	12,307,000
33,362,484	2018	156,885,480	6,234	4,923	102,785,680	19,155,960	22,465,680	12,478,160
26,717,942	2019	159,991,640	6,300	4,950	105,870,000	19,155,960	22,465,680	12,500,000
37,930,000	2020	182,430,000	7,100	6,100	124,250,000	23,180,000	22,500,000	12,500,000
31,410,000	2021	173,910,000	6,700	5,700	117,250,000	21,660,000	22,500,000	12,500,000
47,410,000	2022	173,910,000	6,700	5,700	117,250,000	21,660,000	22,500,000	12,500,000

興業中止保険

同意: ○ 不可: ×

興 業 中 止 保 険（担保条件）				ロイズジャパン	Chubb 損害保険	損保ジャパン	三井住友海上	
1. 保険契約者名		公益社団法人日本地球惑星科学連合		○	○	○	○	
2. 被保険者名		契約社名に同じ		○	○	○	○	
3. 保険契約者の住所		〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階		○	○	○	○	
4. 興業名称		日本地球惑星科学連合2019年大会		○	○	○	○	
5. 保険期間	* パターン①	2019年5月1日～2019年5月30日	興業期間： 2019年5月25日 ～2019年5月30日	○	○	○	○	3/31 までに申し込み締結
	* パターン②	2019年5月10日～2019年5月30日						しかし保険担保は5/1又は5/10から
6. 契約締結期限	* パターン①	2019年4月30日		見積期限：本年3月末 それ以後、再度確認	○	○	○	
	* パターン②	2019年5月9日			○	○	○	
7. 保険料	払い込み方法	一括払い		○	○	○	○	
	精算	不要		○	○	○	○	
	算出基礎	¥85,000,000 : 費用・収益総額		○	○	○	○	
8. 担保危険	右記リスクによる 興業中止	オールリスク		○	○	○	○	
		悪天候		○	○	○	○	
		地震・噴火・津波		○	○	○	○	
		伝染病		○	○	×	○	
		テロ		○	○	○	○	
		暴動		○	×	×	○	
9. 支払限度額	* オプション①	¥60,000,000	1興業あたり	○	○	○	13. 保険料欄参照	
		¥60,000,000	保険期間中	○	○	○		
	* オプション②	¥80,000,000	1興業あたり	○	○	○		
		¥80,000,000	保険期間中	○	○	○		
10. 免責金額		なし		○	○	○	○	
11. 中断予想時の損害軽減費用		担保		○	○	×	×	
12. 縮小支払割合		100%		○	○	○	13. 保険料欄参照	
13. 保険料 (右記金額： 支払限度額)	* パターン①： 5月 1日～	¥60,000,000	オプション①	¥886,000	¥4,785,300	¥2,700,600		リスクの捉え方は、会社によっても担 当者によっても異なる 日本の保険会社は地震は基本的に 受けたくない
		¥80,000,000	オプション②	¥997,000	¥5,309,700	¥3,112,800		
	* パターン②： 5月10日～	60,000,000	オプション①	¥886,000	¥3,472,600	¥2,095,800		
		80,000,000	オプション②	¥997,000	¥3,853,100	¥2,414,400		
	* その他 : 5月 1日～	59,500,000	縮小支 払： 70%				¥1,166,200	
		76,500,000					¥1,499,400	
	* その他 : 5月10日～	59,500,000	縮小支 払： 90%				¥916,300	
		76,500,000					¥1,178,100	

教育検討委員会関連事項資料

2019 年 2 月 27 日作成

担当理事 市川 洋

報告事項

1. 地学オリンピック日本委員会

1) 第 11 回日本地学オリンピック

予選結果発表（1 月 18 日、予選合格者 75 名。そのうち中 3 から高 2 の生徒が本選出場資格者）

本選（グランプリ地球にわくわく 2019）、3 月 10 日～ 12 日、茨城県つくば市

受験者（中 3～高 2：58 名）、チャレンジ受験（中 1、中 2：5 名）

・3 月 10 日 とつぷ・レクチャー（一般聴講可（定員 150 名））

・3 月 11 日 筆記試験（筑波大学）

・3 月 12 日 表彰式 等

代表最終選抜：3 月 12 日～ 13 日、つくば市

2) フューチャー・アース・スクール in 東京

a) 第 2 期 1 月 12 日、1 月 13 日、1 月 14 日、2 月 17 日 各 20 名

キャンパスインフォメーションセンター（CIC）東京 / 生田緑地付近（川崎市）

b) 第 2 期追加 2 月 9 日、2 月 10 日、2 月 11 日、2 月 16 日 各 20 名

キャンパスインフォメーションセンター（CIC）東京

2. 国際地理オリンピック委員会

1) 第 13 回科学地理オリンピック日本選手権（兼第 16 回国際地理オリンピック選抜大会）

第 1 次選抜試験通過者発表（1 月 25 日、153 名）

第 2 次選抜試験（2 月 17 日、全国 7 会場、受験者 148 名）

第 3 次選抜試験（3 月 9、10 日、関東地区）

3. 教育課程小委員会（3 月 3 日開催）

主な検討事項：全国高校地学教育情報交換会について、パブリックセッションの準備状況

4. 教育検討委員会幹事会（3 月 23 日開催予定）

主な検討事項：教員養成等検討 WG の詳細、教員免許状更新講習申請準備状況、委員会 HP の運用

5. 教育検討委員会 HP 掲載情報（抜粋）

3 月 21 日 9 時～15 時

公開シンポジウム「「地理総合」で何が変わるか」

主 催：日本学術会議・日本地理学会

5 月 12 日 13 時～17 時

シンポジウム「新しい時代への理科教育～これまでを振り返り、これからを展望する」

主 催：教科「理科」関連学会協議会（CSERS）

以上

1. 防災学術連携体関係

- ・第 7 回防災学術連携シンポジウム（P3, P4 のポスター参照）を 3 月 12 日（火）に日拳術会議講堂にて開催予定。
- ・ぼうさいこくたい 2019：10/19（土）-20（日）に名古屋コンベンションホールにて開催予定。スケジュールを P5 に抜粋。昨年同様、連合および各学協会の取組を紹介するポスター発表を当委員会とする予定。

<http://bosai-kokutai.jp/2018/wp-content/themes/dt-the7/images/pdf/190205.pdf>

2. 2019 年連合大会

下記の 2 セッションを当委員会主催で開催する予定。

- ・パブリックセッション「0-06 [J] 激甚化する風水害にどう対応するか（主コンビナー：松本 淳）」2019/5/26（日）

招待講演者（敬称略）：

<PM1>

1. 中村 尚（日本気象学会）：平成 30 年 7 月豪雨と猛暑：異常気象の連鎖と地球温暖化の影響
2. 梅澤 有（日本海洋学会）：台風等の気象災害が海洋生態系に与える影響
3. 熊木洋太（日本地理学会）：水害に関連する地形条件の把握とハザードマップ
4. 作野裕司（日本リモートセンシング学会）：2018 年 7 月豪雨を事例とした無料衛星リモートセンシングデータの役割
5. 古橋大地（日本地図学会）：2018 年西日本豪雨におけるクライシスマッピング活動の現状
6. 畑山満則（日本自然災害学会）：避難情報の時間・空間解像度と避難行動に関する考察

<PM2>

7. 小池俊雄（日本学術会議）：大規模広域豪雨災害と多層的な対策
8. 田村和夫（日本建築学会）：洪水から命と生活を守る建築の技術と知恵
9. 森口祐一・大迫政浩（廃棄物資源循環学会）：災害廃棄物管理の現状と課題ー近年の災害からの教訓ー
10. 佐藤 健・矢崎良明（日本安全教育学会）児童生徒と地域住民のための避難計画
11. 神原咲子・山本あい子（日本災害看護学会）：激甚化する水害における健康危機と看護

12. 総合討論

<ポスター発表>

1. 下村博之・望月貴一郎・板野友和・野田敦夫・本多泰章・宮崎真由美・小俣雅志・渋谷典幸（株式会社パスコ）：平成 30 年 7 月豪雨災害で広域に発生した土砂災害箇所衛星画像による自動抽出解析
2. 大友章司（甲南女子大学）・木村玲欧（兵庫県立大学）：西日本豪雨災害における避難行動および復興感の影響要因の検討

・ユニオンセッション「U-07 [J] 連合の環境・災害への対応—予期せぬ地質災害の衝撃に備える—（主コンビーナ：奥村 晃史）」2019/5/29（水）

講演者（敬称略）：

1. 奥村晃史（日本地球惑星科学連合）：予期せぬ地質災害の衝撃を緩和する自然災害環境と景観の理解
2. 宮村淳一（日本火山学会）：2018 年 1 月 23 日草津白根山（本白根山）噴火への対応 —気象庁の取組を中心に—
3. 香川敬生（地盤工学会：招待講演）：地震ハザードマップへの非線形地盤応答の影響
4. 吉見雅行（日本活断層学会）：2018 年北海道胆振東部地震のパルス状地震動解明のための震源域周辺における余震観測および微動アレイ探査
5. 八木浩司（日本地すべり学会）：中部ネパールヒマラヤにおける下刻と埋積にともなう地すべり地形発達 —カタストロフィックな斜面災害を知る—
6. 松田博貴（日本地質学会）：学会行事開催時の非常変災への対応～日本地質学会年会における事例～



平成30年夏に複合的に連続発生した 自然災害と学会調査報告

日 時：平成31年3月12日(火) 10時から17時30分

会 場：日本学術会議講堂

主 催：日本学術会議、防災学術連携体(56学会)

企 画：防災減災学術連携委員会、土木工学・建築学委員会、防災学術連携体



参加費：無 料

定 員：300名

申込み方法：以下のURLの申込フォームよりお申し込みください。

<https://ws.formzu.net/fgen/S44714662/>

※当日発表資料は防災学術連携体ホームページに後日掲載します。 <https://janet-dr.com/>

※近くにはレストランがありませんので、サンドイッチなどご持参ください。

趣 旨

平成30年の夏から秋にかけて、日本列島を自然災害が次々と襲った。平成30年6月18日大阪府北部地震が起こり、平成30年7月豪雨(西日本豪雨)は広い範囲に同時多発的な大雨と土砂災害をもたらした。その後の記録的猛暑と連続して発生した台風、9月4日に上陸した台風21号は、百の観測点で強風記録を塗り替え、高潮と強風で関西国際空港を孤立させた。9月6日の北海道胆振東部地震は震度7を記録し、山地崩落や火力発電所の被災による北海道全域のブラックアウトを引き起こした。

防災学術連携体、56学会と日本学術会議は、これらの災害に対応して、ホームページに特設ページを設け、緊急集会、市民への緊急メッセージ、緊急報告会を開催し、各学会の情報を発信すると共に学会間の情報共有を図ってきた。

本シンポジウムでは、主に平成30年の夏に複合的に連続発生したこれらの自然災害に焦点を当て、各学会の調査報告を行う。さらに、今後、連鎖する気象災害にどう備えていけば良いのか、地震と気象災害などの複合災害にどう備えれば良いのかを議論する。

ポスター発表

日本地域経済学会

日本計画行政学会

日本活断層学会

日本自然災害学会

日本気象学会

日本災害看護学会

日本地質学会

日本リモートセンシング学会

日本赤十字看護学会

東日本大震災原発災害の復興ジレンマ 8 年目

情報通信技術を用いた災害情報伝達と避難体制に関する課題

干渉SARで見えてきた新たな地震像

土石流数値シミュレーションによる避難所設置可能場所の検討

平成30年7月豪雨における停滞性降水系の実態と豪雨災害

被災地での支援・調査活動の紹介

地形・地質情報から知る災害リスクー関東東部を事例に一

大規模災害時の衛星データの利用可能性と将来展望

市町村職員における避難所での要配慮者への対応への備え

山川充夫

山本佳世子

宇根 寛

竹林洋史

竹見哲也

山崎達枝

小荒井衛

伊東明彦

内木美恵

PROGRAM

	総合司会	田村和夫	日本学術会議連携会員、防災学術連携体事務局長	
10:00	趣旨説明	米田雅子	日本学術会議会員、防災減災学術連携委員会委員長	
10:03	開会挨拶	小井土雄一	防災学術連携体副代表幹事、日本災害医学会代表理事	
10:06	来賓挨拶	海堀安喜	内閣府 防災担当 政策統括官	
10:10	セッション1	平成30年の自然災害を振り返る		
	司会	目黒公郎	防災学術連携体副代表幹事、東京大学教授	
	日本学術会議、日本気象学会	連鎖する気象災害のメカニズム —2018年夏の事例—	中村 尚	
	日本学術会議	連続する地震災害	平田 直	
	防災学術連携体、日本建築学会	自然災害、建築に何が可能か？	古谷誠章	
11:00	セッション2	平成30年西日本豪雨災害 被害と対策		
	司会	小松利光	日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授	
	地域安全学会	空間情報データによる広島県土石流災害の評価	三浦弘之	
	地盤工学会	豪雨地盤災害に対する地盤工学の課題と提言	大谷 順	
	日本応用地質学会	西日本豪雨災害における災害発生状況の応用地質学的考察	稲垣秀輝	
11:47	セッション3	平成30年台風21号と強風災害		
	司会	依田照彦	防災学術連携体運営幹事、早稲田大学名誉教授	
	日本気象学会	平成30年台風21号の気象学的特徴と暴風の実態	竹見哲也	
	日本風工学会	平成30年台風21号による強風・高潮災害の実態	丸山 敬	
12:20~13:15	ポスター発表および休憩			
13:20	セッション4	平成30年北海道胆振東部地震 被害と対策		
	司会	斉藤大樹	日本学術会議連携会員、豊橋技術科学大学教授	
	土木学会	北海道胆振東部地震の被害調査と今後の活動	清田 隆	
	日本地すべり学会	北海道胆振東部地震により発生した厚真周辺の斜面崩壊	石丸 聡	
	日本地震工学会	北海道胆振東部地震にみる積雪寒冷地住宅の強靱さと問題	岡田成幸	
14:07	セッション5	災害情報伝達と避難体制		
	司会	山本佳世子	日本学術会議連携会員、電気通信大学准教授	
	日本災害情報学会	西日本豪雨における災害情報伝達の実態と課題	干川剛史	
	日本自然災害学会	平成30年7月豪雨における避難行動の要因分析	畑山満則	
14:40~15:00	ポスター発表および休憩			
15:05	セッション6	連続する災害と復旧救援活動		
	司会	山本あい子	日本災害看護学会理事長、四天王寺大学教授	
	日本災害医学会	平成30年豪雨・地震における災害医療対応	近藤久禎	
	日本救急医学会	病院ライフライン途絶時の患者の治療中断判断基準	大友康裕	
	日本公衆衛生看護学会	災害支援保健活動を円滑に行うための体制とシステム	大木幸子	
	日本看護系学会協議会/日本災害看護学会	水災害による複合的な健康リスクへの備え	神原咲子	
16:06	セッション7	連続する自然災害への備え		
	司会	高橋和雄	日本自然災害学会前会長、長崎大学名誉教授	
	農業農村工学会	平成30年の自然災害に対する農業農村分野の取組み	梶原義範	
	安全工学会	自然災害と産業安全における学術的課題	木根原良樹	
	廃棄物資源循環学会	災害廃棄物対策の専門家による支援体制づくり	大迫政浩	
	日本地形学連合	流域土砂災害の予測における地形学的方法論	松四雄騎	
	日本地理学会	自然の営みと人の関わりから災害を捉える地理学の取組み	宇根 寛	
17:21	閉会挨拶	和田 章	防災学術連携体運営幹事、東京工業大学名誉教授	
17:30	閉会			

情報システム委員会 報告(2019.3.5)

- ・ 日本学術会議 課題別委員会「オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会」
2018.12.18 第 1 回会合。役員選任と、今後の議論方向性を議論した。
2019.02.05 第 2 回会合。京大・梶田教授の話題提供講演「京都大学における研究データマネジメントの現状と課題」
6 月ごろ提言を發表したい→予算要求とリンク？
- ・ 内閣府 統合イノベーション戦略（2018.6.15 閣議決定）
 - 国立研究開発法人におけるデータポリシーの策定のためのガイドライン（2018 年 6 月）
 - 国際認証基準等に基づくリポジトリの整備・運用のガイドライン（2018 年度中予定）→大学・国研の両方に言及。「研究データ利活用協議会（RDUF）」の小委員会で作業中（<https://japanlinkcenter.org/rduf/>）
- ・ 研究評価に関するサンフランシスコ宣言
San Francisco Declaration of Research Assessment (DORA)
 - 2012 年、米国細胞生物学会（American Society for Cell Biology: ASCB）がとりまとめ。その後、分野の壁を越えて議論のひろがり。
 - 一般的な提言、およびファンディング機関、大学、出版者、研究評価指標を提供する機関、個々の研究者、へ向けた各提言からなる。
 - <一般的な提言>
ジャーナルのインパクトファクターといったジャーナルを基盤とするメトリクスを、個々の研究者における貢献、あるいは雇用、昇進、資金配分の決定における評価（assessment）において、個々の研究論文の質の代わりの測定指標として用いるべきでない。
 - <大学に対する提言>
 - 4. 雇用、テニユア、昇進に関する決定において、論文の内容は、出版物に関するメトリクスや出版物の位置づけよりも重要であることを - 特に若手研究者に向けて - 用いる指標を明示すべきである。
 - 5. 研究評価（assessment）においては、研究出版物に加え、全ての研究アウトプット（データセットやソフトウェアを含む）の価値とインパクトや、政策や実践に影響を及ぼすことなど質的な研究指標を含む幅広いインパクトを考慮すべきである。

1. 保育室関連

- ・委託先：近所のおばさんち （予約用フォーム案：<https://kinjoba.com/jpgu/>）
- ・2/22 に担当者と打合せ済。利用者募集の準備を進めている。
- ・キャンセル料は基本的にもらわない。子供が熱を出したりすることは当たり前だから、とのこと。
- ・早い時間に利用者がいなくなったら、その分は料金が発生しない。
- ・安全対策を十分に行う。守衛さんへの連絡、何か発生した場合のことを事前に決めておく。
- ・準備は前日に行う。25 日の 15:00 くらいから。当日は 8:30~19:00 で入る。
- ・保険は「近所のおばさんち」側で入ってもらう。
- ・来年度の英語対応も可能
 - もし、今年も外国人からの希望があった場合に依頼するか否かについては検討中。
- ・費用：0 歳児 1000 円/h、未就学児 800 円/h、小学生 500 円/h
 - 昨年度利用者数の実績で試算するとまだ不足。委員会・保育担当としては、利用者を増やす努力や宣伝、自分たちのネットワークに周知するなどの努力をすることになった。

2. JpGU2019 での委員会関連セッションの準備状況

1) パブリックセッション [O-05 日本人がやりがちなおかしな英語]

- ・ Stop reading, start presenting: How to improve your presentation skills （Roxana Sandu）
- ・ How to deliver good presentations in a foreign language （S. Lan Smith）
- ・ Giving a successful presentation in English: Mission Possible! （Joel Laurier）

2) ユニオンセッション [U-02 (E) 地球惑星科学分野のダイバーシティ推進状況：国際的な視点から]

- ・ Managing Diversity and Inclusiveness （Jessica Federman）
- ・ Where Have All the Women Gone? （Adina Paytan）（招待）
- ・ Gender balance and diversity in the ocean and geosciences: IODP, research cruise, and laboratories （Natsue Abe）
- ・ Problem in paternity leave （Yukihiro Takahashi）
- ・ Challenges in teaching interactive lectures with high student diversity using student response systems （Thomas Parkner）（招待）
- ・ The AGU Ethics and Equity Center: New Resources for Advancing Workplace Excellence （Billy M Williams）

3. EGU2019 での JpGU 協賛セッション

[US4] Promoting and supporting equality of opportunities in geosciences （Co-sponsored by AGU and JpGU）

Convener: Claudia Alves de Jesus Rydin | Co-conveners: Alberto Montanari, Robin Bell, Chiaki Oguchi, Lily Pereg (deceased), Orals | Thu, 11 Apr, 14:00–18:00 Room E1

[EOS6.1] Diversity and Equality in the Geosciences （Co-sponsored by AGU, EAG, and JpGU）

Convener: Claudia Alves de Jesus Rydin | Co-conveners: Holly Stein, Liviu Matenco, Jill Karsten, Tim van Emmerik, Orals | Wed, 10 Apr, 14:00–15:45 Room L8 Posters | Attendance Wed, 10 Apr, 10:45–12:30 Hall X4

1. PEPS 論文投稿・出版状況(2019/2/28)現在

2019 年 1 月より、出版会社である SpringerNature との契約更新にともない、論文掲載料(APC)を改訂した。APC 改定が目立った影響は見られないが、投稿数はやや少なめ。SPEPS の投稿が予定されているので、今後増える見込み。昨年投稿された論文の出版は順調。

1).論文投稿数(Total:446)

～2015 年：146(Review-42, Research-95, Methodology-4, Editorial-4, Correction/Erratum-1,)

2016 年：61(Review-6, Research-50, Methodology/Preface/Datapaper-4, Correction/Erratum -1)

2017 年：110(Review-11, Research-92, Methodology/Preface/Datapaper-6, Correction/Erratum -1)

2018 年：115(Review-16, Research-89, Methodology/Datapaper/Preface -7, Correction/Erratum -)

2019 年：14(Review-2, Research-9, Methodology/Datapaper -2, Correction/Erratum -1)

・査読中：35(Review- 4, Research- 28, Methodology/Datapaper- 3)

・出版校正中：10(Review- 4, Research- 6)

2).出版論文数(Total:266 Review 論文 21.2%)

～2015 年：75(Review- 22, Research - 49, Editorial- 3, Correction/Erratum- 1)

2016 年：38(Review- 10, Research- 22, Methodology- 1, Preface-3,Editorial- 1,Correction/Erratum-1)

2017 年：42(Review- 7, Research- 33, Methodology- 1,Correction/Erratum- 1)

2018 年：89(Review- 11, Research- 70, Methodology/Datapaper/Preface- 5, Correction/Erratum- 3)

2019 年：22(Review- 3, Research- 17, Methodology/Datapaper- 1, Correction/Erratum- 1)

3).Reject/withdrawn 済：135(31.0%)

2. 編集長会議活動報告

2/4 に編集長会議を TV 会議にて開催し、2018 年の投稿・出版状況の総括を行い、査読期間等が長引いている原因と対策について検討した。また、編集上の問題点の検討・情報共有、新規編集委員候補者について報告があった。

■ 出版状況

(2019/2/28)

	～2015				2016				2017				2018				2019				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ y/Data	Total
1. Space and planetary sciences	8	6	0	14	2	1	0	3	2	3	0	5	5	14	1	20	2	1	1	4	19	25	2	46
	11.3%	8.5%	0.0%	19.7%	5.6%	2.8%	0.0%	8.3%	4.9%	7.3%	0.0%	12.2%	5.8%	16.3%	1.2%	23.3%	9.5%	4.8%	4.8%	19.0%	7.5%	9.8%	0.8%	18.0%
2. Atmospheric and hydrospheric	4	8	0	12	2	3	0	5	1	9	0	10	2	18	1	21	0	2	0	2	9	40	1	50
	5.6%	11.3%	0.0%	16.9%	5.6%	8.3%	0.0%	13.9%	2.4%	22.0%	0.0%	24.4%	2.3%	20.9%	1.2%	24.4%	0.0%	9.5%	0.0%	9.5%	3.5%	15.7%	0.4%	19.6%
3. Human geosciences	0	4	0	4	0	1	0	1	0	7	0	7	1	4	1	6	0	1	0	1	1	17	1	19
	0.0%	5.6%	0.0%	5.6%	0.0%	2.8%	0.0%	2.8%	0.0%	17.1%	0.0%	17.1%	1.2%	4.7%	1.2%	7.0%	0.0%	4.8%	0.0%	4.8%	0.4%	6.7%	0.4%	7.5%
4. Solid earth sciences	6	23	0	29	3	13	3	19	2	9	0	11	3	21	0	24	0	5	0	5	14	71	3	88
	8.5%	32.4%	0.0%	40.8%	8.3%	36.1%	8.3%	52.8%	4.9%	22.0%	0.0%	26.8%	3.5%	24.4%	0.0%	27.9%	0.0%	23.8%	0.0%	23.8%	5.5%	27.8%	1.2%	34.5%
5. Biogeosciences	2	3	0	5	0	3	0	3	0	4	0	4	0	5	0	5	1	1	0	2	3	16	0	19
	2.8%	4.2%	0.0%	7.0%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	9.8%	0.0%	9.8%	0.0%	5.8%	0.0%	5.8%	4.8%	4.8%	0.0%	9.5%	1.2%	6.3%	0.0%	7.5%
6. Interdisciplinary research	3	4	0	7	3	1	1	5	2	1	1	4	0	8	2	10	0	7	0	7	8	21	4	33
	4.2%	5.6%	0.0%	9.9%	8.3%	2.8%	2.8%	13.9%	4.9%	2.4%	2.4%	9.8%	0.0%	9.3%	2.3%	11.6%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	3.1%	8.2%	1.6%	12.9%
Subtotal	23	48	0	71	10	22	4	36	7	33	1	41	11	70	5	86	3	17	1	21	54	190	11	255
	32.4%	67.6%	0.0%	100%	27.8%	61.1%	11.1%	100%	17.1%	80.5%	2.4%	100%	12.8%	81.4%	5.8%	100%	14.3%	81.0%	4.8%	100%	21.2%	74.5%	4.3%	100%
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	7
Total				75				38				42				89				22				266

■ 投稿状況

(2019/2/28)

	～2015				2016				2017				2018				2019				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ y/Data	Total
1. Space and planetary sciences	11	17	1	29	1	5	0	6	7	19	0	26	7	7	2	16	0	2	0	2	26	50	3	79
	7.8%	12.1%	0.7%	20.6%	1.7%	8.3%	0.0%	10.0%	6.4%	17.4%	0.0%	23.9%	6.3%	6.3%	1.8%	14.3%	0.0%	15.4%	0.0%	15.4%	6.0%	11.5%	0.7%	18.2%
2. Atmospheric and hydrospheric	8	15	0	23	1	9	0	10	1	30	1	32	1	15	1	17	1	2	2	5	12	71	4	87
	5.7%	10.6%	0.0%	16.3%	1.7%	15.0%	0.0%	16.7%	0.9%	27.5%	0.9%	29.4%	0.9%	13.4%	0.9%	15.2%	7.7%	15.4%	15.4%	38.5%	2.8%	16.3%	0.9%	20.0%
3. Human geosciences	1	8	0	9	0	7	0	7	0	7	0	7	1	11	1	13	0	0	0	0	2	33	1	36
	0.7%	5.7%	0.0%	6.4%	0.0%	11.7%	0.0%	11.7%	0.0%	6.4%	0.0%	6.4%	0.9%	9.8%	0.9%	11.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	7.6%	0.2%	8.3%
4. Solid earth sciences	13	40	3	56	3	20	2	25	1	19	2	22	4	35	1	40	1	3	0	4	22	117	8	147
	9.2%	28.4%	2.1%	39.7%	5.0%	33.3%	3.3%	41.7%	0.9%	17.4%	1.8%	20.2%	3.6%	31.3%	0.9%	35.7%	7.7%	23.1%	0.0%	30.8%	5.1%	26.9%	1.8%	33.8%
5. Biogeosciences	2	6	0	8	0	5	0	5	0	7	1	8	1	8	0	9	0	1	0	1	3	27	1	31
	1.4%	4.3%	0.0%	5.7%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	6.4%	0.9%	7.3%	0.9%	7.1%	0.0%	8.0%	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%	0.7%	6.2%	0.2%	7.1%
6. Interdisciplinary research	7	9	0	16	1	4	2	7	2	10	2	14	2	13	2	17	0	1	0	1	12	37	6	55
	5.0%	6.4%	0.0%	11.3%	1.7%	6.7%	3.3%	11.7%	1.8%	9.2%	1.8%	12.8%	1.8%	11.6%	1.8%	15.2%	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%	2.8%	8.5%	1.4%	12.6%
Subtotal	42	95	4	141	6	50	4	60	11	92	6	109	16	89	7	112	2	9	2	13	77	335	23	435
	29.8%	67.4%	2.8%	100%	10.0%	83.3%	6.7%	100%	10.1%	84.4%	5.5%	100%	14.3%	79.5%	6.3%	100%	15.4%	69.2%	15.4%	100%	17.7%	77.0%	5.3%	100%
Editorial/Correction	-	-	-	4	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	4
	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	7
Total				146				61				110				115				14				446

注: 2016年～2018年の総投稿数には、投稿システム内で投稿番号が付与されないErratum原稿各1件も含むため、実際の投稿受付番号よりも1件ずつ多い。18-00057はTestのため投稿数から削除

■ 編集状況

(2019/2/28)

	Review	Resarch	Methodology/ Data paper /Preface	Subtotal	Editorial + Correctio	Total
Published	54	190	11	255	11	266
	12.4%	43.7%	2.5%	58.6%	-	-
Accepted including	4	6	0	10	0	10
	0.9%	1.4%	0.0%	2.3%	-	-
Under review	4	28	3	35	0	35
	0.9%	6.4%	0.7%	8.0%	-	-
Rejected/Withdrawn	15	111	9	135	0	135
	3.4%	25.5%	2.1%	31.0%	-	-
Total	77	335	23	435	11	446
	17.7%	77.0%	5.3%	100.0%	-	-

要望書

2019年3月4日

日本地球惑星科学連合

ご担当理事 さま

日本政府観光局認定 MICE アンバサダーを務めております佐藤毅彦です。アジア大洋州地球科学学会 (AOGS) 2022 年年会の誘致を目指している福岡市に対し、貴連合よりのご支援をご検討頂きたく、本状をしたためております。

「支援可否の検討・決定は、福岡市が開催地に選ばれてから」とされる貴連合のお考えは、承知・理解をしているところです。しかしながら、札幌市が AOGS2013 の誘致を目指して立候補した際、開催地決定の投票 (2011 年 8 月 13 日、台北 AOGS 年会後の役員会議にて実施) より 2 ヶ月前に貴連合理事会がメール審議により「招致に前向きに取り組む」ことを決定されたともお聞きしております。それを受けて、投票のための資料中で札幌には JpGU の支援 (見込み) が記され、札幌からのプレゼンには大谷先生 (東北大学) がご同席されました。以上の実績を考えますと、今回の福岡市の誘致活動に対して貴連合が「札幌のときとは異なる (より後へ引いた)」ご対応をされた場合、AOGS における選考に際しマイナスに作用することが強く懸念されます。

したがって私からの願いは、(1)札幌のときと同じく「前向きに取り組む」ことをご表明頂きたい (これが「正式な支援の表明」ほどに強くないことは理解)、または(2)もし札幌のときと同じ対応ができない場合は、その合理的な理由 (たとえば貴連合において規約改定があり、明示的にできなくなった等) をご説明頂きたい、ということです。

大規模な国際会議の誘致は、誘致都市・科学コミュニティ・国が総力を挙げ取り組んで初めて、成功へ至ることができると思います。その中で貴連合にも一助となって頂きたく (少なくともマイナスの作用はないよう)、ぜひ前向きにお取り組み下さいますようお願い申し上げる次第です。

日本政府観光局認定

MICE アンバサダー

佐藤 毅彦



NEW
IDEAS
START
HERE



日本政府観光局 認定
MICE アンバサダー

佐藤 毅彦

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
宇宙科学研究所・太陽系科学研究系
教授

〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台 3-1-1
Tel: 050-3362-3838
e-mail: satoh@stp.isas.jaxa.jp

